

東北学院大学

「宗教活動報告書」

第 19 号

(2017年度)



鷲のように翼を張って
(イザヤ書40:31)

巻頭言

2017 年度	第 62 回教職員修養会	1
2017 年度	第 22 回キリスト者教員研修会報告	35
2017 年度	第 43 回サマー・カレッジ報告	41
2017 年度	宗教活動報告	47

東北学院大学

「小さい種にできること」

宗教部長 野村 信

本年 2018 年の 7 月、第 3 週にアメリカのランカスター神学校校長キャロル・リッチ夫妻が東北学院を訪れ、当校と本学との国際交流協定を結ばれました。研究ブランディング事業の一環として企画され、実現の運びとなった記念すべき協定です。「小さい種にできること」とは、その週の水曜礼拝でリッチ校長が説教の奉仕をされた時に、マタイによる福音書 8 章 4 節以下の「種を蒔く人」のたとえから取られた題です。

リッチ校長は、この神学校から若き W. E. ホーイ、続いて D. B. シュネーダー両牧師を、130 余年前、仙台の地へ送り出した側として、東北学院の歴史を感慨深く見つめられました。キリストがこのたとえで示すように、押川方義と共に二人の卒業生が蒔いた小さい種が育って豊かな実りを結んだことを幸せに思うと語られました。

「種を蒔く人のたとえ」は福音書の中で、多少表現を変えて、あるところでは詳しく、あるところでは簡潔に語られています。いずれにせよ、「神の国はからし種のような(マタイ 8:10、13:31)」と言われるのです。蒔かれた小さな種がなぜ成長し、大きな実を結ぶかは人の知り得ることではなく(マルコ 4:27)、成長させてくださるのは神です(1 コリント 3:6)。

翻って、実りを得た私たちのこれからが問われます。受けるばかりでなく、与えることが求められます(使徒言行録 20:34)。私たちがこれから種を蒔く番です。蒔かれる種は多様な時代にふさわしく様々な種でしょう。どれも小さい種でかまいません。国内は無論、国外へ心を馳せ、向かう時代です。本学の「豊かに学び、地域へ世界へ」はキリストの宣教の教えに基づいたスローガンです。私たちも含め、若者たちにしっかり学んでほしいと思います。さらなる取り組みに神の御支えを心から祈ります。

2017 年度

第 62 回教職員修養会報告

第 62 回東北学院大学教職員修養会プログラム

日 時 2017 年 8 月 30 日 (水) ～ 8 月 31 日 (木) 1 泊 2 日
会 場 宮城蔵王ロイヤルホテル (TEL 0224-34-3600)
〒989-0916 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字鬼石原 1-1

主 題 『聖書に聴く』
講 師 国際基督教大学学長
日比谷 潤子先生

8月30日 (水)

9:00 土樋キャンパスホーイ記念館西側より送迎バス出発
10:00 受 付
10:30 開会礼拝 司会：阿久戸義愛先生
奨励：松本宣郎学長
奏楽：今井奈緒子先生
学長挨拶
講師紹介
11:00 講 演 演題：『与えること』
講師：日比谷潤子先生
司会：藤原佐和子先生
12:00 質疑応答
12:25 オリエンテーション
12:30 昼 食
13:15 各部屋チェックイン
14:00 グループ懇談『講師講演をめぐって』
15:00 休 憩
15:30 全体懇談「宗教改革 500 周年 ルターと讃美歌」
司会：野村信先生
担当：中川郁太郎先生、今井奈緒子先生
18:00 夕 食
19:30 自由懇談

8月31日 (木)

7:00 朝 食
チェックアウト
9:00 朝 拝 司会：鐸木道剛先生
奨励：日比谷潤子先生
奏楽：今井奈緒子先生
10:00 全体協議・報告会
司会：吉田新先生
12:00 閉会礼拝 司会・奨励：野村信先生
奏楽：今井奈緒子先生
閉会挨拶
12:30 昼 食
13:30 解 散 (ホテル前より送迎バス出発)
14:30 土樋キャンパスホーイ記念館西側送迎バス到着

第 62 回東北学院大学教職員修養会開会礼拝奨励

【開会礼拝】

司会 阿久戸義愛先生

讃美歌：第 313 番

聖書：新約聖書 ルカによる福音書 第 17 章 1 節～ 4 節

説教：『赦してやりなさい』

讃美歌：第 537 番

大学宗教主任 阿久戸 義愛

〔ルカによる福音書 第 17 章 1 節～ 4 節〕

イエスは弟子たちに言われた。「つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者は不幸である。そのような者は、これらの小さい者の一人をつまずかせるよりも、首にひき臼を懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がましである。あなたがたも気をつけなさい。もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい」

『赦してやりなさい』

学長 松本 宣郎

今年も、恒例の東北学院大学の夏の修養会を持つことができ、大変幸いに思います。

「ゆるす」という聖書の言葉について、考えたいと思います。そう思わせるにいたったのも、この現代、特につい最近、大変不安を覚えることが私たちの周りに、あるいは世界に見出されるからです。人々の、人類たちと言っていほど、その行動に何とも言えない、不安や嫌悪の念をかきたてることがあまりにも多いと思います。「きれる」という言葉がありますけれど、思い当たる節が多いと思いますが、本来はナイフが切れるとか頭が切れるとか、いい意味で使う言葉、ごくごく普通の動詞であったんですが、今は違います。人に対して怒りを一挙に爆発させる、非常に不寛容・狭量な思い、そしてその思いが爆発して人を攻撃する、傷つけるにいたる人間の行動を指しています。本来とは違う言葉になってしまっています。ちょっとしたことで、まあ言うなれば頭にきて、自分の運転手にとんでもない暴言を吐いてしまった国会議員がいました。それをまた録音するというところにも、録音する人の切れた状態を感じないわけではありませんでした。いろいろなところにそういう面は見出されます。ある地域に子供たちのための保育園を作ろうとして、周辺の人に聞いてみたら、子供の声はうるさいから絶対嫌だ、という、まあこれは切れたということまではいかないんですけど、非常に不寛容な反応をした高齢の方々が多くいたという話もあります。

何かあるとSNSで映像をあげる、それはそれでいいんですが、踏切に立ち入って自撮りをしてそれをあげて、いかななものかということで、途端に次に起こったことはツイッターでの炎上です。これも切れる現象です。そのためにブログを閉じるとか、場合によっては職を辞する、タレントとしての生命を半分断たれる、そういうようなことすら起きるわけです。あるいは生徒の行動なり言葉に、急に怒りを覚えて、明日からくる必要がないとか窓から飛び降りるなどということを平気で口にする教師のことも聞かされ、我々も胸が痛む思いがします。

単に市井の人々だけではなくて、世界的に影響のある座にある方々が、ツイッターなどでしきりに攻撃をする。すぐそれを取り消したりもするんですけど、非常に浅い思いで思ったことをすぐ口にしてしまう。それが世界に与える影響力とか、人を傷つけるということまで思い至らないということです。挙げれば本当にきりがありません。

どうしてなのか。昔ももちろん切れることはあったわけで、殺人事件は前からあったし、秋葉原の大きな殺人事件も10年くらい前にありました。世界で戦争とか紛争とか、絶え間がありません。それでも人が我慢できなくなる、切れてしまう事例が、先ほど私が申し上げたように、近年目立ってしまうということです。一つには、さきほどSNSということを申

しましたが、ITが高度化して、非常に発信しやすくなったし反論もしやすくなった、しかも匿名でそれができる、だから抑制が効かない言葉もつい文字にしてしまう、言葉にしてしまう、映像にしてしまうことがあるだろうと思うのです。とても楽にそういうことができるようになった。昔ならテレビとかラジオでしかできなかったことを、普通の人間・普通の子供ができるようになったということが一つあるだろうと思います。もちろん良いこともあるわけで、そのために人の命が助かったとか、ほのぼのとした話題も出てきたりもするんですが、その逆が非常に多い。先ほどいくつかのたいへん不愉快な実例を話しましたが、その背景にあるのはやはり、これもよく指摘されることですけれど、時代の閉塞状況ではないか。SNSで発信できるんだけど、だからといって生活がよくなるわけではない、自分の内にあるわだかまりが晴れ晴れとするようなことはほとんどない、こういう風な状況に多くの人間がおかれている。その度合いが深刻になっている。それをやわらげるとか、もうちょっと穏やかに、寛容になろう、人々の痛みを想像する力を持ちなさいとか、そういうことをもってほしい。そういう寛容さがないので、ミサイルが飛んだだけで、考えられなかったような暴挙だ、とすぐそういう反応をしてしまう。世界の指導者がそうなんですから。

さて、そこで何を我々は言わなければいけないのか。どういう風に考え直せと訴えなければいけないか、ということです。そこで聖書を見なければいけない、イエスを見なければいけないと思うのです。福音書から知られる彼の行動はどうであったでしょうか。今日のところでも、前半はちょっと飛ばして、後半は、あなたの知っている人が、あなたに攻撃をしかけてきたとしても、「ゆるして」といったら許してやりなさいということ。それは何回あっても、7回というのはもう何万回あったって許してやりなさいという意味の7回でしょう。もちろんこう申しますと、皆さんの頭の中にはすぐに、例えばマタイによる福音書の18章21節・弟子がイエスに「許してやれとおっしゃいますがいったい何回許してやればいいのですか、7回はまあなんとか我慢しますが」イエスは「7を70たび、490回は許しなさい」という風におっしゃったという有名な言葉が浮かぶと思います。そのようなイエスの言葉とか行動は枚挙にいとまなく福音書に出てくるのではないのでしょうか。ブドウ園の主人が朝労働者を雇う、昼労働者を雇う、午後また雇う、夕方になってまた労働の市場に出て行って仕事がない人がいた場合には、「あなたも来なさい、朝の人と同じだけの給料で雇ってあげる」というブドウ園の主は、どんなに寛容な雇用者であるか、という例もあります。「汝の敵を愛せ」という究極的な言葉もあります。切れるなどはとんでもない、ゆるしてあげなさい、たとえあなたを攻撃し憎むものがあっても彼を愛しなさい、何かいさかいがあるならば和解しなさい、という言葉も何度も見ることができます。

そのイエスは、どのような生涯をおくったかということでもあります。このように許しを主張し愛を主張し寛容を主張し、それを実践したイエスは、寛容でない、切れた人々、ユダヤ人・ローマ人によって捕えられ、裁判を受け十字架に追いやられ処刑されたわけです。しかしイエスはそのような仕打ちにあう中で一言も弁明せず抵抗せず、それを聖書は屠り場、殺

されにいく子羊のように従順に黙ってその死を甘んじて受けた、そう記します。それはイエスが聖書の言葉によれば神の子であり、神の命じるままに生き、死んだからです。神が命じる以上、一切抵抗せず、人を責めることなく、十字架にかけられて苦しみの中にあるイエスは、彼に槍を刺そう、あるいはからかって水を飲ませよう、あるいは彼が着ていた服を奪い取って切り裂いてたがいに分けようとする人たちを前に、「神よ、彼らを許してやってください」というそのような言葉を、十字架の上の言葉の一つとして残したわけです。そのようなイエスの姿勢・生き方です。先ほども言いましたように、私たちが今この世界、不安・懸念の中にとるべき、あるいはとるようすすめるべきことは。そのイエスは十字架の死を引き受けたのち3日目に復活したということが、私たちにとっては大きな励まし、支えになると思います。攻撃されそのことを許す、ということはなかなか辛いことでもあります。しかし私たちは許す。なぜ許すか。イエスがそのようにされたから、イエスがそのように命じておられるから、そしてそのイエスは究極まで人を許しそして殺されたけれどもよみがえられた、そのことを我々は知っているからです。条件があるから、許しても大丈夫だとかそういう浅薄なことではなくて、そのイエスの例があるから、私たちは許さなければならないということでもあります。

私たちの先達であったイエスの弟子たち、ペテロのことを思い起こします。ペテロも実はある意味では切れる人だったという事例はいくつか聖書の中にあります。イエスを逮捕しに兵士が取り囲んできたときイエスの身を案じたペテロは、短剣を持ってその兵士に襲い掛かって耳をそぎ取った、そのペテロをイエスは叱り、そのようなことをしてはならないと言って傷を負った兵士の耳を癒した。その記述もまた印象的です。パウロはどうでしょうか。パウロはキリストとの出会いを得る前に、厳しいキリスト教徒たちの攻撃者、責める人、いわば切れていた人であったということをご承知だと思います。そのパウロの仲間たちによって、イエスの福音を述べ伝えていたステファノはリンチにあって殺されたわけです。そのあとパウロは幻のイエス、復活のイエスに出会って心を入れ替え信仰者となり、初代キリスト教会最大の伝道者となったわけです。が、そのパウロもやはり自らの、浅薄で、人を憎むことによって、限度を超えた行動をしてしまった自分のことをおそらくは思いつつ、そしてイエスの生き方、許せといったイエスの言葉をおそらくは思いつつ、様々な場所で、寛容・忍耐という言葉を書いていることも我々は読みとることができます。ゆっくり見る暇がありませんけれども、「コリントの信徒への手紙Ⅰ」の13章4節、愛は忍耐強い。じっと我慢する、それが愛である。人の行動にいちいちいらだってはならないということになるでしょう。あるいは「ガラテアの信徒への手紙」5章22節、霊、これはキリスト、神を信じる信仰の霊です、霊の結ぶ実は平和であり、寛容であり、という言葉も彼は残しています。

このように、キリストのこの生き方、許せというその生き方を私たちは、キリストの生涯、彼の生き方・死に方、そして復活、そのことにあわせて真似なければいけない。寛容でなければいけない。人からの攻撃とかあるいは憎しみに対して忍耐強くなければいけない。キリ

ストがそのようであれ、そのように命じられるからだということでもあります。

今日の聖書の各箇所イエスは「赦してやりなさい」という。やりなさいという言葉を使います。イエスだから言う言葉であります。私たちもまた他人の攻撃に対して、ゆるしてやるという思いでいる、まあそうしなさい、ということです。これに対して「やる」というのは結局は上から目線だ、あなたは別に苦しいこともつらいこともない、つらいことがあって社会に憎しみを持つ人をゆるしてやりなさいという、どこかそこに心の傲慢さがあるんじゃないか、そのような批判的な見方もあると思います。もちろん私たちは他人に対して上から目線で接してはいけないと思います。ただあえて言えば、私たちはそのようなことをしてやるにしても、それはイエスがそうせよと命じられた、それがあから我々がやれる、私たちはイエスを思うから人に対して、知らない人からは上から目線に見えるかもしれないけれど、私たちがしていることはイエスの行いを彼らに伝えて、そのおっしゃったとおりにやる、そういう意味での「やる」、ということでもあります。そのように私たち、キリストを建学の精神とするものは、キリストに学ぶ、キリストをまねる、キリストのように行動する、思う、そのことを常に忘れないようになりたいと思います。その思いの中に、私たちの学校、大学における人と人との関係の根幹があるし、ましてや私たちよりは目下にあたる学生生徒たちに対する姿勢にも、私たちは「やる」という姿勢で臨むけれども、その根本は自分の方が人間として偉いからするのではなくて、イエスのなされたようにしているという、そういう思いでなければいけない。そのように思います。天の神様、建学 131 周年の時、大学にとっては 68 年目の夏、修養会を持つことができ感謝いたします。どうか私たちが、人間に対して安らぎの心・慰めの心・いたわりの心・寛容の心・忍耐の心をもって接し、共にキリストをまねる、キリストにならうことができますように。修養会に派遣された教師をあげましてくださいますように。ここに集う百数十名の者たち一人一人をどうぞあなたがかえりみて、この修養会の最初から終わりまで守り、導き、励まし、いたわってください。この願いと感謝を尊き主イエス・キリストの御名によって御前にお捧げいたします。

アーメン。

主題講演「聖書に聴く」

『与えること』

国際基督教大学学長 日比谷 潤子 先生

講師略歴

日比谷 潤子

(ひびや じゅんこ)

国際基督教大学学長

1957年10月22日 東京生まれ

学歴

- 1980 (S55) 年3月 上智大学外国語学部卒業
1982 (S57) 年3月 上智大学大学院外国語学研究科博士前期課程修了
1988 (S63) 年5月 ペンシルベニア大学大学院言語学科博士課程修了
(Ph.D.in Linguistics)

職歴

- 1987 (S62) 年4月 慶應義塾大学国際センター専任講師
1992 (H4) 年4月 同助教授
1994 (H6) 年9月 ダートマス大学アジア研究プログラム訪問準教授
[平成6(1994)年11月迄]
2002 (H14) 年4月 国際基督教大学教養学部準教授
2004 (H16) 年4月 教養学部教授 [現在に至る]
2004 (H16) 年4月 同日本語教育課程主任 [平成17(2005)年3月迄]
2005 (H17) 年4月 同語学科長 [平成18(2006)年3月迄]
2006 (H18) 年5月 教学改革本部長 [平成24(2012)年3月迄]
2008 (H20) 年4月 学務副学長 [平成24(2012)年3月迄]
2012 (H24) 年4月 学長 [現在に至る]

その他現在の活動

独立行政法人日本学術振興会評議員
日本学術会議連携会員 (言語・文学)
中央教育審議会委員

主な著書

- 『ことばの宇宙への旅立ち2 10代からの言語学』(ひつじ書房) 2009年
『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻 文法』(凡人社) 2009年
『はじめて学ぶ社会言語学 ことばのバリエーションを考える14章』
(ミネルヴァ書房) 2015年

主題講演「聖書に聴く」

『与えること』

国際基督教大学学長 日比谷 潤子

国際基督教大学 ICU の現在学長を務めております日比谷潤子と申します。

この度、東北学院大学、第62回教職員修養会にお招き頂きましたこと大変光栄に存じます。1泊2日の短い間ではありますが、この大学の教職員の皆様方と共に、聖書の教えやこれからの教育はどのようにしていったらよいか、ということをやっとじっくり考える時間が持てたということに深く感謝をしております。

この中には ICU のことを大変よくご存じの方もいらっしゃるかとは思いますが、そうでないという職員の方や先生方もいらっしゃると思いますので、簡単に大学の概要を最初にご説明いたします。その後、毎年聖書に聴くという統一テーマをもとにこの修養会をもっていると伺いましたので、特に本日お話しする内容に関連する聖書の箇所をお示しし、その後は具体的に私どもの大学で最近、非常に力を入れて取り組んでおります事をご紹介したいと思います。

東北学院自体は、大変歴史の古いところで、大学としては 1949 年に設立となりますと、ICU は 4 歳年下で、今年 64 年目であり、従って開学したのは 1953 年です。

もう少し詳しく申し上げますと、ICU は実験的な大学をつくろうという趣旨で、第二次世界大戦終結後すぐに色々な準備を進めました。1949 年に御殿場会議といわれているものが開催され、静岡県御殿場市の東山荘にて寄付行為を定め、その後 4 年間の準備期間を経て、最初の学生が入ったのが 1953 年でした。大学では、ちょうどその 53 年を起点としまして、2013 年が 60 周年ということになりますが、前後 2 年ずつを足しまして、11 年から 15 年までの 5 年間で 60 周年の周年事業期間と定め色々な行事をいたしました。

お手元の資料のパワーポイントの印刷のデザインは、60 周年記念期間中は全然別のものを使っていましたが、60 周年が終わって、2016 年から新しいものにしました。あまりご覧になりやすくないと思いますが、パワーポイントのファイルを大学にお渡ししているのですが、お時間があったら画面で見ていただくと、3 本の木が立っているのがお分かりになるかと思えます。この左から 3 本の木のどこかに I・C・U という文字を埋め込んでいます。葉っぱではなく棒みたいに見えますが、これが I で、本日キリスト教の大学でお話しているという

文脈ではCが最も大事かと思いますが、Cはこれです。2本目の真ん中の木のてっぺんにあります。そしてこれが一番分かりやすいと思いますが、Uになっています。何人かの先生方にはすでに名刺をお渡ししましたが、私どものオフィシャル名刺は、表側は白地で裏の英語がブルー地に白抜きのデザインになっています。名刺だと小さいですからわかりにくいのですが、外国に行った時や初めてお会いしたときに裏をお見せして、この中に埋まっているという、話が盛り上がります。それからI・C・Uの話をすることもあります。

今申しましたように、1953年に開学し、名は体を表すというか、こんなに分かりやすい大学はないというか、国際基督教を大学名としている大学でございます。キリスト教の精神に基づいていること、それから自由にして敬虔なる学風を目指していること、そして国際的
社会人としての教養をもって神と人にと奉仕する有為の人材を育て、恒久平和の確立に資することを目的としております。特に恒久平和の確立ということにつきましては、第二次世界大戦の悲惨な結果を受け、2度とこのような戦争を引き起こさない、そのために役にたつ人を育てようということが根幹にある大学です。今の時代にあってこの責任を果たしていく責務というのは非常に重要なものであり、本当に大きな覚悟をもって大学を運営したいと日々思っています。先ほど松本先生のご紹介にもありましたが特徴としては学部学科が基本的に一つです。教養学部のみで学士課程、開学当初は3つの学科があり、その後6つまで増えたこともありましたが、2008年から学科制度を廃止しアーツサイエンス学科という1学科に統合しました。その中で、旧6学科で専攻できた分野をほぼすべて引き継いでおり、30余りのメジャーと呼んでいる専修分野を用意しています。その中には哲学や文学といった人文科学、政治学、経済学、国際関係論といった社会科学、数学、情報科学、生物学、物理学といった自然科学、そして環境研究、平和研究、ジェンダー研究といった学際的な分野もあります。1学年の学部入学定員が620名、大学院は小さいですが、アーツサイエンス研究科という研究科を一つ持っており、今年5月1日現在合計で3000人に満たない非常に小さな大学です。専任教員数は5月1日ですと151名で、いわゆるST比は1名の教員に対し学生18名という日本の私立大学として大変恵まれた教育環境を保持しております。大学にいらしたことがある方はどのくらいいらっしゃいますか？ぜひお訪ねくださればと思います。季節としていいのは写真右上にある桜の時期です。もし機会がありましたら、是非桜の時期にいらしていただければと思います。夏の写真もありますが、今の時期も緑が大変美しく、雪が降ると夜中のうちに大学専属のカメラマンがスタンバイし写真を撮ります。なぜそうするかというと、学内に約10の寮があり、雪が降ると早朝から学生が雪合戦や雪だるまを作ったりするのでなかなかきれいな雪景色の写真が取れない、もし降れば雪の時もなかなかきれいな大学です。敷地が62万平方メートル、東京ドーム13個分のキャンパスです。

教育上の特徴としてはいろいろあるかと思いますが、第1はバイリンガルの大学です。4月入学の学生は基本的に日本の高校を卒業していますが、その人たちに対し、ELA、リベラル・アーツ・英語プログラムという初年次教育で、1年次入学式直後に英語のクラス分けテ

ストをし、4つのレベル（能力編成）に分かれて勉強しております。

大多数の学生は1年間、ICUは三学期制なので、春・秋・冬の三学期、この間英語でしっかりと大学レベルの勉強ができるように、文献を読む力、レポートを書く力、授業で議論したり発表したりする力、英語で行われる専門講義を聴きノートを取る力、こういったかたちでアカデミックスキルを含め、徹底的な英語教育を行っています。一方、9月の入学式もあり、留学生、帰国生、国内のインターナショナルスクール卒業生が入ります。この人たちは基本的には英語、あるいは日本語以外で学んできた人たちなので、こちらのグループについては、同じことを日本語教育のプログラムでしっかり身に付けてもらいます。結果的には、2、3、4年と学年が進みますがどちらの入り口から入っても、英語でも日本語でも十分な学術的活動ができるようになって卒業するということを目指しております。ICUのバイリンガリズムの一つの特徴は、授業はもちろん、寮の中にも留学生がたくさんおり、同室になることもあるので、寮生活も両方の言語を使い暮らしていますし、クラブ活動もそうです。また会議資料もすべて日英両語で作成しており、大変な手間がかかりますが、開学以来の大学の方針で守っております。それから非常に自然に恵まれたキャンパスなのですが、ちょっと危険な昆虫もいて、当面の敵はスズメバチです。この間ICUの高校に入りたいと考えている中学生の保護者の方を対象に説明会を開催したときに、スズメバチの大群が発生し、保護者の方が刺されてしまったこともありました。こういったスズメバチ注意の案内や、食堂のアレルギー表記の案内といったものもすべて日英両語で表記しています。1対18のST比で少人数教育の徹底を堅持できています。また昨日の学長、副学長、野村先生たちとの食事会で話題になりましたが、現在約3分の1が外国籍の教員です。伝統的にはアメリカ出身が多いですが、最近はハンガリーやブルガリア、アジアでは韓国もかなり増えており、9月1日にはアルゼンチン国籍の教員が着任予定です。残念ながら、まだアフリカからの人がいないのですが、今公募しておりアフリカ出身の人が来てくれるといいと思っている分野もごございます。

このように英語教育に大変力を入れておりますので、在学中に一度は海外留学をしてほしいと思っています。これもいろいろなタイプのものがありますが、一番大きいものは3年夏から4年夏まで、1年間協定校に行く交換留学、その他、夏みのプログラムやACUCAといいますが、アジアのキリスト教主義の大学を2か所回るというプログラムなど、合わせて42か国91の大学に、58のプログラムを行っております。

今日、何をお話ししようかと思っておりましたが、「与えること」という題をもとに、皆さんと考えてみたいと思いますのは、「使徒言行録」のこの箇所です。

「ご存知の通り、私はこの手で私自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのだ。あなた方もこのように働いて弱い者を助けるように。また主イエスご自身が受けるよりは与える方が幸いであるといわれた言葉を思い出すようにと、私はいつも身をもって示してきました。」(20:34-35)

実はこの箇所は、今年4月の入学式で私が選んだ聖書箇所です。このときは何の話をし

たかと言えば、先ほどから申しておりますように、大変恵まれた環境で教育研究にあたる
ことができているということです。それはなぜか？といいますと、現在キャンパスがある土地
は、大学を作ることが1949年に決まった後、日本と北アメリカにて行われた募金活動で集
められたお金により、購入しました。今年の入学式で保護者の方が話していたのが耳に入
ったのですが、お父さんが「さすが広い学校できれいな」と言うと、お母さんが「ここは
GHQで作った大学だからお金持ちなのよ」と言っていました。違う違うと、ぜひ言いたかっ
たんですが、そのあと入学式で話を聞くと違うということがわかるのでお引止めいたしま
せんでしたが、その誤解は結構多く、アメリカが作った大学だと思われることが頻繁にありま
す。ただ、アメリカが協力してくれたことは確かなのですが、当初日米で募金活動をするこ
とになっておりましたが、アメリカで事情があり、非常に多くの募金が寄せられたのは実は
日本側でした。当時の日銀総裁・一万田尚登さん、あの方が委員長となり、組織的にお金
を集めました。その運動、今でいう募金キャンペーンで、例えば小学生がおやつを我慢し、5
円10円をささげてくれるとか、他の大学、具体的には早稲田ですが、早稲田の学生がアル
バイトをし、一人100円ずつ持ってきてくれたというような、本当に学生さんやキリスト
教も全くご存じないような方々が大学を作ることに協力し献金してくださったのです。その
積み重ねにより大学のキャンパスができたわけです。昔はゴルフ場や牧場がありましたが、
ある時期にそれらを東京都に売却し、野川公園となっています。その売却によって得た金額
を元にして基金を作りました。現在様々なことができるのはこの基金を運用しているため
です。もともと多くの方からのご寄付によって成り立っているのです、ICUは皆さまの善意がな
ければできなかった大学ですし、ご寄付がなければ存続していないということになります。
入学式では、こういう方々が与えることが幸いであると本当に思い、この聖書の言葉を知ら
なかった方がほとんどだと思いますが、それを身をもって示してくださったので、皆さんは
それに応えるような学生生活を送ってくださいというメッセージを送りました。

今日は、教職員修養会ですので、私ども教職員がどんなふうに与えるべきか、先ほど松本
先生のお話にもありましたが、学生に対しどう接すれば、受けるよりは与える方が幸いであ
るような教職員生活を送れるかを、今私どもが取り組んでいることとお話したいと思いま
す。

実は、今のICUで一番新しい部署ですが、学修教育センター、Center for Teaching and
Learning, CTLと略しますが、これが2015年4月に発足しました。これは学生の学修、ラー
ニングと、私ども教員の教育、ティーチングを支援する部署となっています。どうしてこれ
を作ることにしたかという、一つ目は、私は2012年に学長になりましたが、その後すぐ
に3つの教育ビジョンというものを作り、それを実現するためにこのセンターが必要であ
る。二つ目は、ここでしていることというのは、いくつかの部署が分散してやっていること
で、全くやっていなかったわけではないが、縦割りになりすぎていたので、統合し新しい機
能も加える。三つ目はスーパーグローバル大学創生支援事業のタイプBに採択されており、

これをその構想の柱の一つとして、2014年5月頃に調書を提出し、秋に採択の知らせがあったのですが、この10年間で作ってしっかり運営していくことを書きました。

教育ビジョンについては、キリスト教の大学ではどこでもおっしゃることだと思いますが、一つ目は、学生は様々な可能性を持っています。実は教職員も様々な可能性を持っていて、FDやSDはそれを引き出すためにするものと私は考えています。構成員全体の可能性をそれぞれに応じて最大限引き出す大学になる。二つ目は、そのいろんな可能性を持っている人がたくさんいるが、各構成員は何をすればいいのか、自分に与えられた使命をぜひ自覚してほしい、色々な可能性・能力を私たちは持っているがそれを自分のために使うのではない、他者のため社会のために自分は何ができるかということ、学生の場合は在学中にその芽を見つけてほしいと思う。教職員はそれなりにこうすれば自分は社会の役に立つかなという思いを持っているが、その実現に向けさらに努力を重ねてほしい。三つ目は、どんな大学にも建学の理念というものがあり、その理想というのは永遠に終わるわけではなく、常に新しい理想、もっと上の目標を求め成長していかねばならないと思いますので、成長し続ける大学ということも掲げております。

それで、分散していた業務の統合についてですが、FDオフィスというのがありました。それから障害者の法律ができましたが、かなり以前から様々な障害者を受け入れてきていた大学で、最近特にその人たちのために、特別学修支援室というのを作りました。その他に、アカデミックプランニングセンターといい、30余りのメジャーを持っていますが、入る時は教養学部に入るので、どの専攻に進むかというのは入学後科目の履修や教員との相談、友達との情報交換などが重要になりますが、2年の終わりまでに決めることになります。必修科目は全学で一つだけ、一般教育科目のキリスト教概論です。その他は何をどうするか、先ほどのリベラルアーツ英語プログラムや日本語教育プログラムは人に応じ単位数が決まっていますが、基本的にはそれぞれが自分で履修計画を立て一人一人が自分でカリキュラムを組むというのがキャッチフレーズです。何もしないと迷子になってしまう人がたくさん出てしまいますので、履修の道筋をつける、メジャー選択でどういう方法があるのかというようなことを総合的に相談に乗る部署として、アカデミックプランニングセンターというものがありません。その他、ITセンターでIT関連事業や、教員向けですがラーニングマネジメントシステムのサポートなどをしていました。図書館は通常の図書館業務もありますが、数年前からライティングサポートデスクを図書館の中に作り、授業レポートから卒業論文まで、ライティングのサポートをしていました。

それであまりにもばらばらになっているので、去年の修養会の様子を収録した冊子に、大西晴樹先生が、21ページに明治学院大学で学生がいろいろたらいまわしにされていることを書いていらっしゃいますが、このようなことで一人ひとりを大切にするキリスト教の大学といえるのか、人格教育などと言っている場合かといういろいろおっしゃっていますが、同じでございます。私どももまるでピンポンのようにあっちへ行けこっちへ行けということをして

いたわけですが、これではよくないということで、まずFDオフィスとICTのサポートと特別支援オフィスを一つにし、ここまでをひとまとまりにしCTLとしました。ここにCTL運営委員会というのを置き、FD委員会も統合し、CTL委員会でFDも考えるということにしました。2015年にはアカデミックプランニングセンターがこの中に入りました。その後、ライティングサポートデスクは今も図書館の中にありますが、以前よりはるかに連携して業務を進めるようにしています。

さて、そのCTLですが、このCTLのウェブサイトは外からでもどなたでもお入りいただけます、中にしか公開していないところもありますが、ぜひ一度見ていただければと思います。写真が小さいですが、この人が今のCTLセンター長で、哲学の教授です。具体的には、学生の学修支援、それから教育授業の支援で、これは主に教員に対する支援です。それから学修の環境整備ということもしています。もう一つ大変大事なこととして、学生を対象としたいろいろな調査をしています。これまでは縦割りで色々な部署がばらばらに調査をしていて学生の調査疲れということもあったのですが、これもできるだけ統合しようということと、もう少ししっかり調査結果を分析し改善に活かそうということもしています。

これには色々な背景があるんですが、CTLを本当に充実させなくてはならない一つの理由は、先ほどりベラルアーツプログラムと日本語教育プログラムの説明をしたときに、4月生は日本の高校を出、9月生は日本以外の教育制度で学んできているといいましたが、SGU構想の一番大きな柱は、基本的に今までの4月・9月の区別を撤廃する。60周年の時に還暦だと学内で言ったのですが、還暦で何を見直そうかという話になりました。4月に入ってきた学生の中に日本以外の教育制度で学んできた学生もいるだろうし、日本の高校を3月に出て、9月に入ってきて何が悪いの？という話もありました。それからもう一つはパイリンガルの大学なので、これまでは日本の高校を出てきた人は日本語でしっかり教育を受けてきているわけですが、9月に入ってくる人は、英語圏で教育を受けた人はそれほど厳しく言っておりませんが、それ以外の国の制度で学んできた人は、日本語はゼロでも入る時は構わないが、英語は一定の能力を持っていないとだめだ、というアドミッションポリシーでした。

日本語はゼロでも1年生の時に集中して日本語教育プログラムするというにしておき、それを履修しながら一般教育科目やメジャーの基礎科目は英語で開講しているのでそれを取りましょうという風にしていましたが、この方式だと非常に多くの、アジアの国やそれ以外の地域もありますが、どっちにもうまく出願ができない層というのが、世界を見ると結構いるわけです。その人たちの多くは、アジア圏の人が多いたのですが、日本語も英語もそれなりにできるけれど、かつての9月生に要求していたほどの英語のスコアはない人、日本語はゼロでもいいと言っていたので、日本語能力は全く問うていなかったが、日本留学試験を受けて、それなりのスコアを持っている人もいますので、この4月から始めて、今年9月、今週の金曜日にその第一号が入ってきます。日本語も英語もこれまでに比べてそれほどの能

力ではないが、入ってから日本語教育プログラムもリベラルアーツ英語プログラムも必要に応じて履修する。

この人たちの非常に大きい強みは、例えば中国からの学生の場合、中国で中国語で高校までの教育を受けてきているので、非常に中国語はもちろんできるわけです。私どもの大学で、英語以外の外国語、中国語や韓国語など全部で9つありますが、学ぶことができます。そういう言語がネイティブである学生が入ってきたら、それを学んでいる日本人の学生にとっても非常に良いことであって、寮で同室になるかもしれない。そうしたら中国語のキャンベーションパートナーになってもらうとか、すべての人にとっていろいろな可能性が広がると思います、このような新しい入学者選抜の方法を考案しました。これはユニヴァーサル・アドミッションズと呼んでいます。そうすると先ほどの、一人一人の可能性を最大限に引き出すといいましたが、語学要件も、卒業までに何がどのくらい必要かということはその人の入学時の日本語と英語の能力をしっかりプレズメントテストではかり、卒業までに身につけてほしいと思う能力をつけるために、どのプログラムの科目をどのくらい履修すればいいかということ個別に判断しなければいけない、という風になってきたわけです。CTLはそれだけではありませんが、学修支援についてはそれを支援することが非常に大きなポイントになっています。相談にのったり入学前新入生オリエンテーションをしたり、それから従来通りメジャーを選ぶまでのアカデミックプランニングの支援もそうです。それから先ほどお話ししました特別学修支援と情報リテラシー教育もここでやっています。

学修環境整備の方ですが、下から2番目に、ICUオープンコースウェア、これは外にも公開しています。その他にICUTVというのもあり、これは何をしてるのかというと、私どもの授業を動画撮影しています。それを見ることができるのですが、学内の学生はいわゆる反転授業で事前にそれを見てから授業に来るというコースがだんだん増えています。そうすると、日本でずっと教育を受けてきた学生で英語の授業にまだ慣れていない、あるいは先ほど例に挙げました中国からの留学生の場合もそうですが、日本語の授業も英語の授業もちょっと不安があるというような人は、これを事前に自分で見て何回も予習をすることができますし、あるいは事後であっても、ここちょっとわからなかったなというところを何回も復習して見るということができるようになっていきます。それで、そのコンテンツを作成するのに以前は非常に時間がかかっており、ITセンターの職員が授業に行き動画を撮り編集し、本当に時間がかかっていたんですが、これも環境を整備し、最初教員は多少勉強しなくてはいけません。自分の研究室で、自分のコンピューターのカメラで、自分で動画を撮ることができるように今しておりますので、以前に比べるとはるかにその手間は減りました。

教育事業支援の方は、教員の相談窓口もここにあるので、こんなことで悩んでいるのだけどとか、ラーニングマネジメントシステムの使い方がよくわからないとか、あるいはもっと有効に使うためにはどうしたいかなどというような相談にのっております。ベテランの教員も、授業の支援、授業改善をしたいときには、ぜひ寄ってほしいと思います。それからあ

とで少しお話ししますが、新任教員のオリエンテーションも、このセンターが中心になって行っています。そして学外研修への派遣なども、ここである程度組織的に計画をもって行っています。

最後に先ほどお話ししました調査の分析・研究ですが、これはあまり時間がないので短くしますが、授業効果調査、個々の授業についての評価です。それから学生学習意識調査というのを3年次にしています。卒業時調査というのは、卒業する直前に学生に答えてもらうものですが、そこからいろいろな課題が上がってきています。それをもっと深く分析することをおまわりしていませんでしたので、ここで学生調査の統合をして集約展開としたいと考えております。

そこで、2016年度に何をしたかといいますと、学修支援分野ですが、先ほどバイリンガルの大学だといいましたが、これまでは、例えば松本先生が古代史ですので古代史を例にとつて言いますと、日本人の教員が日本語で古代史の授業を開講しているとすると、従来はその授業のシラバスは日本語開講の授業なので日本語で作っていました。同じ授業を英語で開講している場合は英語で作っていたのです。そうすると、日本語がゼロという人はそのシラバスを見てもなんのことも分からないということになったんですが、あるいはちょっとできるようになってもあまりわからなかったと思うんですが、すべてのシラバスを開講言語に関わりなくバイリンガル化いたしました。そうするとどうなるかということ、自分はこっちが得意だからこっちの言語で開講されてるのを取りたいという人ももちろんいますが、いつもでもそうしていると苦手な方が強くないので、ある程度チャレンジします。苦手な言語だけどこれどうかなと思った時に、例えば英語開講の古代史にチャレンジしてみたいが何をやっているのかということをおまわりつつかみたい場合は、日本語の方を見るわけです。で、こんなことを英語でやられては自分はまだ無理だと思った場合は取らないと思いますが、この内容だったら英語でも頑張ってみるかと思う、その逆もあるかと思えます。それをしました。それからカリキュラムツリー、これは30余りのメジャーそれぞれについて基礎科目100番台の科目から200番台、学部の最上級は300番台ですが、どんな順番で履修していけばいいか、あるいはここここはオプションだがどっちを取るかというようなことをできるだけ見やすく作りました。30くらいのメジャーでそれぞれのものを作っていたら、あまりにも多様なものになってしまい、見直して少し統一することをしました。それから、英語開講のコースは、やはり多くの日本の高校で教育を受けてきた学生にとっては、どんなに勉強してもある程度のところに行くには難しいものがあるので、特にこれらのコースについては受講学生に色々な支援をしました。TA制度も従来からありましたが、いくつかの見直しがあったので、教育の支援を見直しをしました。カリキュラムツリーの見直し、シラバスのバイリンガル化は、これは学生にとっても重要ですが、教員の方もカリキュラムツリーこういう風に作った方がいいですよというアドバイスをしたり、シラバスのバイリンガル化もちょっと大変という教員もいたので、できるだけCTLでサポートするようにしました。

そして、英語開講で英語で教える、これは英語が母語でない教員、これは日本人も含めませんが、今大体 40 パーセントくらいの科目を英語開講にしたいと思っています。将来的には 50 パーセントまでいくのがバイリンガル大学のあり方だと思います。そうすると先ほどお話ししたように、外国籍の教員が三分の一ですから、ある程度日本語が母語でない教員が英語で開講しないと達成できない目標ということになります。そこで、英語でクラスを初めて開講するという教員に対しては、オックスフォード大学で行われていた研修への派遣や、それはとりあえず一人行っただけですが、戻ってきてから全体に向けワークショップをすとか、具体的なコースごとに支援したりということを行いました。それから先ほどお話しした ICU オープンコースウェア・ICUTV で、かなりの授業を録画して公開しています。ウェブ会議システムや講義収録システム等は機器の充実ということでお話したものです。

これによって、ユニヴァーサル化、先ほどお話ししたような意味での多様な学生に対応する、それから様々な障害を持った学生、特に学習障害を持った学生は、東北学院大学でもたぶんたくさんいらっしゃると思いますけれども、時間をかけることによって、あるいは自分で十分予習・復習をしたりすることによって、きちんと授業内容をこなしていくことができるというケースもたくさんありますので、それに対応する。また反転授業のことは先ほど申し上げた通りです。

このようないろいろな支援のツールを作りますと、これは卒業時調査、あるいは個々の授業の評価でもしておりますが、授業時間外にどのくらい学習をしているかということ进行调查しているんですが、これが確実に増えています。これは単位の実質化ということで大変重要だと思いますが、ただ授業じゃない時に勉強しなさいと言ってもなかなか増えませんが、やはりこれを見て予習すとか、ここがわからなかったから復習するというような、具体的な材料があると学習時間は増えると思います。

それから調査・分析の分野では、授業効果調査は、これはあまり公に言いたくないのですが、ICU は非常に早い時期からこれを導入しましたが、今はどこの学校でもなさっていると思いますけど、あまりいじってないので今や結構古めかしいというか、他の大学のものを見せていただきますとこれも改善したい、あれも改善したいと思うようなことばかりになって、今これの見直しをして、秋から教員のグループを作って、具体的な改善案と新しいものの導入をしようと思っているところです。学生意識調査については先ほどお話しした通りです。

今年度になってからは何をしているかという、これまでの続きみたいなものですが、学生の学習支援の充実を図るということと、それから相談窓口を分かりやすくしっかり作って相談に来やすいようにしました。それからチューター制度というのを作り、学生のチューターが学生同士で支援するというようなことも始めています。それから、実は 9 月に間もなく始まる場所ですが、新任教員向けに非常に本格的な FD プログラムを開発しました。これはすべてではありませんが、一部は公開することになっています。何らかのご参考になることもあるかと思っておりますので、是非ご覧いただいて、もっとこうした方がいいとか、これ

はあまりよくないといったご意見もいただきたいと思います。

この9月に着任する教員から、1学期間このプログラムを受けると、そのために最初の学期は少し授業担当を減らすのですが、それでもこのプログラムを受けるということを始めます。こちらは何かあるかという、3つのコンポーネントがあります。一つは実際に集まって研修をするタイプのものですが、大半はウェブベースで勉強することになっています。それはICUの建学の理念を学ぶというところから始まり、ICUでどのように授業をしているかという大変具体的なこともありますし、アドヴァイジングの仕方であるとか成績のつけ方であるとかかなり細かいプログラムを組みました。そして3つ目としましては、メンターをすべての新任教員につけることにし、このメンターが定期的に会ってサポートをする、あるいは新任教員とメンターと私どもが集まって食事会をするというような3本柱になっています。これは特に大事だと思いますが、大学院が終わって学位を取って本当に初めて教員になるという人は、私のこれは長年の観察ですけれど、やっぱり初めて仕事について非常にうれしいわけですね、それから最近の若い教員のひとと話すとかある意味感心するんですが、やはり就職事情が非常に厳しくなっているのも、ものすごく素晴らしい研究業績があってもほとんど教育の経験がないということになると、落とされるということが結構あちこちであります。そうすると教育の経験もできていなければならぬし工夫もできていないと、なかなか仕事につけないというある種の危機感があると思うのです。私これは大変に感心しましたけれど、学長になった最初の年に教員の希望者と個人面談をしたんですが、その時に着任2年目の人と話をして、その人は東京大学の博士課程を出ている人なんですが、東大の時の同じ研究をしてる分野の仲間と集まって研究会に行くっていうんですね。もう私は当たり前のように研究の相談をするんだと思いました。たとえばそのグループで集まって今度一緒に科研費の申請をしよう、合宿に行って調書の下書きをしよう、皆さんもなさったことあると思いますが違うのです。何をしてるのかと言ったら、テーマを決めて、その人は国際関係とジェンダーが専門の分野でしたが、集まって互いに学生役をやって授業を試みるのだそうです、テキストを決めておいて、みんなであれが悪いそれが悪い、これはわかりにくいとか、自分の授業ではこういう課題を出しているということはもちろん、教育改善のためにやってるんですけど、非常に感心すると同時にびっくりしたんですけど、もしかしたらお気を悪くなさる方もいるかもしれませんが、それに比べて非常に大きい問題は、私自身も、先ほど松本先生がご紹介くださったように44歳で慶応からICUに移ったんです。担当する科目が少し変わったということもありましたけど、そもそも規模が全然違うので、教育の方法であるとか、教育に対する考え方、授業で何をやるかということは、結構コペルニクス的転換を数年でしなければならなかったと自分自身でも思っています。こういう人が一番よしくなくて、ある程度他の大学でキャリアを積んでから移ってくる、あるいは非常にお偉い先生ですね、大変業績もあって、長年どこどこ大学で教えていらしたというような場合に、どんなに素晴らしい先生であっても、その研究業績も素晴らしいし、その先生なりに教育の確立されたス

タイトルがあってそれもいいものなのですが、それが先ほどからお話ししている ICU の少人数教育に合うかという、必ずしもそうとは言えない。で、なかなかこういうところは改善していただきたいというのは難しいのですが、やはり新任向けの FD 教育プログラムはこれからやるものなので成果はどうかということは数年後にお話ししたいと思いますけど、大学の理念は何か、それからこういう風に授業をしてるということをお話しして、もちろん意見を言ってもら、それはよくないとかこうしたらいいんじゃないかと言ってもら、いいと思いますけど、やはりこの大学の教育は何を目指している、こういう風にしたらいいのではないかということは共有を図ることが大変に大事であると思い、このプログラムを開発いたしました。

それから 2 番目に私どもは、一昨年ですかね、新しくテニュアトラック制度を導入いたしました。これは今職階が、講師は別なんですけど、助教・准教授・教授となってます。助教で採用される人はテニュアトラックではありますけれど、最初はテニュアがありません。全く教育の経験がない人の場合は、5 年間このテニュアトラックでしっかり教育も研究も頑張ってもら、きちんとした評価制度を作りました。中間のレビューなども経て、5 年たった後、テニュアを付与するかどうかを決定する。第一号の人が今年審査を受けることになっていますが、これでテニュアが与えられればその時に同時に准教授になります。経験がある人の場合は 3 年にこれを短縮するということをしています。いよいよ最初の人の評価が今年ありますので、新テニュアトラック制度の振り返りをする。これが大変に重要な一つの任務とっております。それから先ほどちょっと触れました TA 制度もいろいろ見直ししたり、ガイドラインの改定ということをしています。それからこども繰り返しますが、調査についてもいろいろ見直しをするということが今年の活動になっています。

そろそろいただいた時間いっぱいになりましたけれども、今日お話ししたかったこと、「与えること」という題でお話をしましたが、私たち教職員はひたすら与え続けるのが役割だと私は思っています。特に、「学生は未来から派遣されてきた」、よく「学生は未来からの留学生」という言葉がありますけれども、将来から私たちのところにつかわされてきた人であり、いろんな言い方ができますけれども、キリスト教大学として、これは神様が私たちのところにつかわせてくださっている。そうであるから、先ほど松本先生のお話にもありましたけれど、キリストならどうしたか、イエスならどうしたかと考えるならば、どうしたらこの学生たちがそれぞれ可能性を最大限に伸ばすことができるか、そして自分の使命を自覚し社会に出ていくことができるかということを考えなくてはいけない、そのためにはやはり教職員の使命というのは与えることにあると考えております。なかなかそうは言っても日々の業務というのはもちろん皆さんもそう思ってると思いますが、多忙ですし、具体的に学生が目の前に現れて、もう何でこんなことがわからないんだと思ったりとかもするわけです。しかしながら、やはりキリスト教大学としては、この大変大事な一点をぜひ忘れることなく、皆様とも一緒に色々な取り組みを進めてまいりたいと思います。

この後色々ご質問をうかがうことになっていると思いますが、私のお話はとりあえずここでいったん終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

【 朝 拝 】

讃美歌：第 357 番

聖 書：新約聖書 ローマ信徒への手紙 第 12 章 3 節～ 8 節

説 教：『キリストに結ばれて』

讃美歌：第 540 番

大学宗教学主任 鐸木 道剛

〔新約聖書 ローマ信徒への手紙 第 12 章 3 節～ 8 節〕

わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて予言し、奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

『キリストに結ばれて』

日比谷 潤子

昨日の講演のはじめにも申し上げたので繰り返しになりますが、東北学院大学の夏季教職員修養会にお招き下さり、まことにありがとうございます。キリストの福音によって立つ大学に奉職する者の1人として、「Life, Light, Love」の3L精神を掲げる貴学のみなさまとともに、このように豊かな自然の中で、聖書の教えや教育について思いをめぐらす時を与えられましたことに、まずは感謝申し上げます。

東北学院大学にお邪魔するのは、これが2回目です（厳密に言えば、ここは大学そのものではありませんが…）。前は2002年の11月初め、日本言語学会の大会で土樋キャンパスに参りました。当時私は、学会の役員の一つである大会運営委員長を務めており、会場校責任者の大石正幸先生をはじめ、多くの先生方や学生のみなさまには、大変お世話になりました。ちょうどこの年の春にICUに転任したばかりで、ICUの教員になってからは、初めてうかがったキリスト教学校教育同盟校でした。この学会は通常は土曜の午後と日曜に大会を開いているのですが、貴学にお願いするにあたり、日曜の午前中を避けるため、日曜の午後と文化の日で祝日になった月曜を使っての開催としたと記憶しております。この時は、外から見ただけでラーハウザー記念礼拝堂の中には入りませんでした。その後2014年に国の登録有形文化財となったそうで、次の機会には、是非そちらで一緒に礼拝にあずかりたく存じます。

私たち教職員は、日々たくさんの学生に対面で接していますが、これらの学生が大学あるいは大学院を出てから活動することになる、いわゆる知識基盤社会は、常に拡大し越境しています。このような時代にあって、学びが卒業もしくは修了と同時に終わるとは、到底考えられません。時々刻々と変化する世界の課題に挑戦し、その解決を図っていくためには、自らすすんで学修を計画し、生涯にわたって学び続ける態度を、学生時代に十分に身につけておく必要があります。学生がこのような目標を達成して社会に出ていくために私たち教職員が果たすべき役割は、学生が自分自身の力で創造的に学修の道筋を立て、自ら人生の行程を設計できる人へと成長していく過程を見守り、初年次から卒業に至るまで、段階に応じて適切な支援をすることだと思います。

このような役割は、どのような大学に所属しているとしても、大学教職員一般に課せられており、もちろんキリスト教大学の教職員にも求められているわけですが、これをキリスト教大学らしく表現してみると、どうなるでしょうか。よくご承知のとおり、人間はみな違って、誰一人として、同じということはありません。それは、私たちが神からそれぞれ、

他の人とは異なる賜物を授かっているからです。自分にはどのような賜物を与えられているのか、これを意識することによって、人は自らの使命を自覚できるようになるのだと思います。聖書は、「授かっている賜物を生かして互いに仕えよ」と説いています。キリスト教大学の教職員は、一人ひとりの学生が、神から授かった特別な賜物に気づき、それを自分自身のためではなく、他者のため、また社会のために最大限に活かす道を探し当てていく過程を支援することをとおして、日々、学生に仕えなければなりません。昨日の講演では、聖書から『受けるよりは与える方が幸いである』という箇所に触れました。私たちの周囲を見回すと、残念ながら、この逆、つまり与えることよりも受けることの方が幸いだと考えている人々が、少なくないように見受けられます。人から何かを受け取って嬉しいと思うのはもちろん自然な感情ですが、キリスト教大学の教職員に求められているのは、与えることこそ私たちに本当の喜びをもたらすのだと心から信じ、大学のどの部署でどのような仕事をしていようと、日々の営みの中で、報いを望まず惜しみなく与え続けることでしょう。

ローマの信徒への手紙第12章第5節にあるとおり、私たち教職員は「キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分」であって、それぞれ課せられた任務は異なりますが、学生の成長を促すという目標では一致しています。言うまでもなく、人間の身体に備わっている数多くの器官は、おのおの独立しているわけでも、すべて同じ働きをしているわけでもありません。個々の器官は、からだ全体のためにそれぞれの機能を有しています。同様に私たちも、1人ひとり、神から他の人にはないその人だけの能力や立場を与えられており、各自が果たすべきことは違います。それがどのようなものであれ、私たちには、常に全体を念頭に置きつつ、何のためにこれらの能力や立場が自分に与えられているのかを考え、その役割を果たすことが期待されています。パウロは、この「体」に関する節の直前で、各人がその働きを遂行するにあたって、慎み深く考え、自分の限度を知って、常にへりくだった心で神に仕えるようにと促しています。そして、続く第6節では、「わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っている」と述べ、「預言」、「奉仕」、「教え」、「勧め」、「施し」、「指導」、「慈善」の合計7つの賜物に触れています。教員であれ職員であれ、すべての人々が、自分に与えられた異なる賜物を用いて働けば、互いが助け合い、よりよい結果が得られるはずです。

さて、このたび講演、そして、この朝の礼拝でお話しさせていただくにあたり、貴学のウェブサイトを見ました。3L精神についても、ラーハウザー記念礼拝堂の有形文化財登録についても、そこから情報を得たのですが、ウェブサイトで私が最も注目したのは、「外部評価」のページです。「外部評価委員会」発足の翌年から、外部有識者の方々による点検評価が続けられていることに、驚くと同時に深い敬意を覚えました。学生数が1万人を超え、6つの学部と6つの研究科を擁するこの規模の総合大学で、学部や研究科単位ではなく、全学的な点検・評価作業を毎年実施しているところは、ほとんどないと言っていいのではないのでしょうか。

ICUは3学期制なので、6月末には春学期が完了します。7月の初め、夏休みに入って、学生も教員もそれぞれの活動に従事するため、あちこちに出かけて行き、学期中とは打って変わって静かになったキャンパスで、私は「平成28年度東北学院大学外部評価報告書」を読みました。この報告書の冒頭には、「貴大学には、本報告書を学内外へ広く公表すると同時に、学内においては、今後の教育の改善、社会貢献の取り組みにおいて大いに活用されることを切望する」との記述がありますが、まことにそのとおりで、昨日の講演や今朝の礼拝メッセージを準備する際に、大変役に立ちました。それまでの6年間に実施された外部評価において委員会から指摘された事項は、視点とよばれる11の項目にまとめられたうえで、内容に応じてさらに「広報・大学のプレゼンスを高めるもの」、「教育活動」、「施設設備と学生支援」の3つに分類されており、項目ごとに大学がどのような対応をなさってきたか、評価委員会の指摘に対する回答が詳細に記されています。これらはいずれも、大学の将来にとって無視できない事項ですが、私は「学力底上げの必要性」、「教員の教育活動への学生の要望」、「初年次教育、低学年からのキャリア教育等の取組」、「高い目標設定の必要性」の4つの視点に整理された「教育活動」のセクションを、特に興味深く拝読しました。あらためて申し上げるまでもなく、大学は何よりも教育機関です。教育の中身がしっかりしていなければいくら広報しても意味がありませんし、大学のプレゼンス向上も望みません。また施設や設備も、どのような教育を目指すのか、その方向をまず定めたいと整えられるべきものと考えます。

このセクションに列挙された大学からの回答を拝見すると、学生の修学意欲の充実、履修指導、基礎教育の充実、初年次教育の拡充、学生の目的意識の涵養、成績上位者に関する学習意欲の醸成、学生のケア、大学での意欲的な学びを促進するための全学的な取り組み、教育の質的改革、個に応じた研究指導といったことばが出てきます。このような記述を私は、先ほどお話した、学生が自力で人生の行程が設計できるように段階に応じて適切な支援をするという教職員としての任務を、みなさまが真摯に遂行しようとなさっている姿勢の表れと受け取りました。なかでも最後に挙げた「個に応じた研究指導」、特に「個に応じた」の部分には、1人ひとりをかけがえのないものとして大切にするキリスト教の精神が、端的に表現されていると感じました。ICUも開学以来、学生を個として尊重する教育を目指しておりますが、今日はみなさまに、私が最近経験したことをご紹介し、キリスト教大学の教職員にとって、学生の支援とは何かについて、ご一緒に考えてみたいと思います。

今年の4月、入学式が終わってからしばらくたった頃でした。あるICUの教員が「この春、子どもが1年間の浪人生活を経て、第1志望の大学に入学しました」と報告してくれました。私は即座に「それはよかったですね、おめでとうございます」と応じました。このような場面では、そのように言わない人はいないと思います。誰でも同じように反応するでしょう。しかしながら、さらに続けて詳しく話してくれた、この1人の受験生が大学合格に至るまでにたどった道のりは、一番行きたかったところに入れたと聞いて、ほぼ反射的にお祝いの気

持ちを口にした私の想像を、はるかに超えるものでした。合格した高校に通い始めたものの次第に足が遠退いたこと、その高校を出席日数ぎりぎりようやく卒業したこと、それから大学を目指してさらに一年間努力を続けたこと、幸いなことに、それが実を結んで第一志望校を含め、受験したすべての大学学部で合格したこと等々。この間、親も子もさまざまな苦悩や葛藤を抱えていたであろうことは、容易に推察できます。

昨日も触れましたが、ICUには学生の主体的な学びを支援するため、1953年の開学当時からアドバイザー制度があり、助教以上の専任教員がアドバイザーとして、学生1人ひとりにつきます。1年次から3年次までは、入学の時点で指定されたアドバイザーが、毎学期の履修計画に助言を行い、卒業研究が始まる4年次のはじめには、それまでのアドバイザーから卒論アドバイザーに代わり、卒業論文作成の専門的な指導を中心に学士号取得までの学びを支援しています。学生が奨学金や各種留学プログラムに応募する際に推薦状や所見を書くのも、生活上のさまざまな問題について相談にのるのも、すべてアドバイザーの仕事です。このアドバイザー制度は、個々の教員が、担当する学生1人ひとりに共感しつつ、人格的な交わりを深めていこうという気持ちを持たなければうまく機能しません。

家庭で自分の子どもの将来を案じていた先ほどの教員も、当然のことながら、大学では多くの学生のアドバイザーです。担当していた学生の中には、やはり学校に馴染めず高校中退を経てICUに入ってきた人、第1志望でICUに入学はしたもののうまく適応できず自信を喪失した人、将来の進路について悩むうちに体調不良になった人、保護者の経済状況が急変し学業を続けることが困難になった人ほか、さまざまなケースがあったそうです。この教員に限らず、アドバイザーであれば、私自身を含め誰でも、このような学生を担当したことがある、あるいは今まさに担当していると思います。東北学院大学の教職員のみならず、制度は異なっても、学生を支援する営みの中で同じようなご経験を必ずお持ちのはずです。

この教員は、進むべき方向をあれこれ模索する学生の話に耳を傾けつつ、自らの務めに真剣に取り組んだのでしょう。その結果、試行錯誤を繰り返していた学生も、時間はかかっても無事卒業して就職したり、大学院に進学したりと、やがてはそれぞれの進路を選び取っていったとのこと。この数年間にわたって、アドバイザーとしてこのような学生と接する際に、話の自然な流れの中で、折々、自分の子どもの様子に触れることもあったそうですが、さまざまな悩みや問題を抱えつつ、それを乗り越えようとする学生が発する言葉に、逆に自分が励まされることも少なくなかったと言います。子どもの第1志望校への入学が決まった時、自分のことのように喜んでくれたのも、ICUでの学生生活が必ずしも平坦ではなかった学生だったと言っていました。

この話を聞いて私は、日々の務めの中で報いを求めずに与え続けることにより、私たちが神から受けるものはさらに大きくなるのだということを実感しました。キリスト教大学の教職員として、「思いあがることなく」、日々の営みの中で、自分に与えられた賜物を「惜しまず」、「熱心に」そして「快く」用いてまいりたいと存じます。

全体懇談

「宗教改革 500 年 ルターと讃美歌」

宗教部長 野村 信

「宗教改革 500 年 ルターと讃美歌」

宗教部長 野村 信

<1、はじめに>

今年は、マルティン・ルター（1483-1546）が「95 ヶ条の論題」を 1517 年 10 月 31 日にドイツのヴィッテンベルクで発表してから 500 年目にあたるので、世界各地のプロテスタント・キリスト教の広がる地域で、記念のお祭りやイベントが行われています。東北学院もアメリカに広がった、ドイツ改革派のプロテスタントの教会の宣教師、ウイリアム・ホーイと D・B シュネーダー両先生たちと、横浜バンドと呼ばれるプロテスタントの信仰者グループ出身の押川方義先生によって設立されましたので、本学においても今年は幾つかの催し物を企画しています。

<2、全体像>

16 世紀に始まる宗教改革は、キリスト教の神学そのものを刷新したばかりでなく、人々の生活や文化といった、あらゆる領域にわたって変化を起し、さらにヨーロッパに近代化をどの地域よりも早くもたらす原動力になりました。今も、そのいくつかの領域について、研究が盛んにおこなわれていることを考えますと、宗教改革の運動が世界史に与えた影響の大きさを考えざるをえないと思います。



1517 年に「95 ヶ条の論題」を発表した 3 年後の 1520 年の、ルター 27 歳の肖像画。この年、宗教改革の三大文書と呼ばれる代表作を出版した。

精悍で、確信に満ちた表情である。

そのような広範な領域における刷新運動の中で、今回は、音楽という分野でどのような変化があったかをお話したいと思います。当時のキリスト教世界では、一般民衆は民謡をよく歌ったようですが、音楽は特に教会や修道院の「礼拝」や「定時祈禱」の中で歌われる性質のものでした。宗教改革は、礼拝の思想や形式も変革しましたので、音楽そのものも変化することになりました。端的に言えば、中世の教会において長きに亘って歌われていた聖歌隊のラテン語のミサ典礼曲や修道士たちの時禱書にあるラテン語讃美歌から、新たに宗教改革が広がった地域では、それぞれの母語で、しかも歌詞がかなり自由に創作された讃美歌が歌われるようになりました。会衆が讃美歌を手にして、みな声をそろえて歌うというスタイルが始まりました。

ルターをはじめ、カルヴァンら宗教改革者たちは、新しい讃美歌の必要について論じ、作詞もしました。宗教改革以後、どのように讃美歌が歌われるようになったかを、ルターに焦点をあてて解説しましょう。

ラテン語聖歌 *Victimae Paschali* 「過越しの生贄」

コラール *Christ ist erstanden*

(ルターが聖歌をドイツ語にあわせて直したもの、讃美歌 21-316)

< 3、宗教改革以前の様子 >

宗教改革は、神学の思想的な改革だけではなく、それまで聖典とされていたラテン語訳聖書から、母語で読めるように聖書を各国語に翻訳するという取り組みを開始しました。マルティン・ルターが旧・新約聖書をドイツ語に訳して出版し、ジャン・ガルヴァンとピエール・オリヴェタンは、フランス語に訳し、英語は、一足早く、ジョン・ウイクリフと彼の弟子のニコラスによって 14 世紀末に出版されていました。

讃美歌にしても同様に、ドイツのヴィッテンベルクにてルターがドイツ語の讃美歌を作詞し、ツヴィングリがスイスのチューリッヒでロマンシュ語（南西部ドイツ語）で、カルヴァンがジュネーヴにてフランス語で、新しく自国の言語で歌えるように着手しました。従来ラテン語に固定されていた聖書や讃美歌が、母国語に翻訳されて、一般民衆が聖書を自ら繙き、讃美歌を手にとって歌い、神を自分の口と言葉で讃美し、感謝することが始まったことは画期的な変化でした¹。

当時の礼拝音楽は、カトリック教会のグレゴリオ聖歌などに代表されるように、ラテン語によるものでしたから、聖職者とその指導にある人々の専有物だったのです。当時の礼拝音楽について、ルターが指摘する言葉を紹介しておきましょう。

1 Markus Jenny, *Luther, Zwingli, Calvin in ihren Liedern*, (Zurich: Theologischer Verlag, 1983), ss. 11-12.

私はまた、グラジュアル（昇階曲）の後の、サンクトゥス（聖なるかな）やアグヌス・デイ（神の小羊）に続いて、会衆がミサの間に歌いうる、出来るだけ多くの自国語の歌がほしい。今ではただ聖歌隊が歌うか、あるいは聖別の時の司教に応答するかだけである。これらの歌は以前には〔初期の教会では〕すべての会衆によって歌われていたことを誰が疑うだろうか。このような歌は、ミサ全部が自国語になるまでは、ラテン語の歌の直後に、あるいは一日おきに、自国語の歌が歌われるよう、司教によって整えられるべきである²。

これは、ルターが 1523 年に執筆した「ミサと聖餐の原則」で述べた讃美歌に関する見解です。宗教改革の発端となった「95 ヶ条の論題」を提出した 1517 年から 5 年たった時点で、初期のルターの讃美歌に対する思いを伺い知ることができます。

このルターの母国語ドイツ語による会衆讃美歌の願いは、自ら創作することによって一気に前進しました。翌年から続々とルターと、後に賛同する音楽家たちが、讃美歌集を出版し始めました。

< 4. ルターの讃美歌 >

ルターは讃美歌を作りましたが、その素材となる原曲は、中世の教会で長く歌われてきた伝統的なグレゴリオ聖歌です。ルターは、この教会音楽で育ちました。もう一つは、通俗的で異端的と見られていた、中世後期にドイツ一帯で流行した民衆の歌です。主に、「ミンネの歌 Minnesinger」と「親方の歌 Meistersinger」です。Minnesinger とは、中世ドイツの恋愛詩の歌であり、今日で言う、フォーク・ソングのようなものです。これにさらに手工業者の親方たちが歌う Meistersinger が加わりました。

ルターの手による、プロテスタントの最初の讃美歌は、1524 年にヴァルターによって出版された『八つの讃美歌の書 Acht Liedebuch von Walter』であり、この 8 篇の讃美歌のうち、ルターによるものは、4 篇でした。同年続いて、更に 2 冊の讃美歌の書（当時は、讃美歌集というより、書物、ないしは本）が出版されています。一つは、『手引きの書 Eyn Enchiridion』と題し、25 篇中 18 篇がルター作と言われています。

今日の日本基督教団の讃美歌第 1 編の 258 番、「貴きみ神よ、Aus tiefer Not Schrei ich zu dir」や、讃美歌第 2 編の 100 番、「主は死につながれ Christ lag in Todes-banden」、同 103 番の「みたまなる神よ Komm, Heiliger Geist, Herr Gott」、などは、この歌集から選んだ讃美歌です。同年出版されたもう一冊の本は、『合唱讃美歌の書 Geystliche gesangk-Buchleyvn von Johann Walter』であり、ヴァルターの編集によるものでした。この歌集には、32 篇が収められていますが、ルターの歌は、実に 24 曲にのぼっています。教団讃美歌第 2 編 96 番「いまこそ来ませ Nun komm, der Heiden Heiland」は、この歌集に入っています。

2 『ルター著作集』第一集 5（聖文舎 1967 年）、229 頁。掲載文は青山四郎訳に微修正を加えて用いた。

コラール Aus tiefer Not schrei ich zu dir 「深き淵より我汝に呼ばわる」

第一旋律（讃美歌 258）、第二旋律（讃美歌 21-22）

コラール Nun komm, der Heiden Heiland 「今こそ来ませ、異邦人の救い主よ」

同 オルガン用編曲 J.S. バッハ作曲 BWV699



<現在のヴィッテンベルクの教会内部。当時の面影が残っている（写真：野村）>

<5、「ドイツ語ミサ」の讃美歌>

ルターは、1526年に「ドイツ語ミサ」において、ラテン語礼拝のプログラムに手を加えて、ドイツ語による新しい式文を提唱しました。この礼拝式の中に、ドイツ語の讃美歌を会衆が歌う箇所があります。以下に紹介しましょう。下線を引いたところがドイツ語の部分です³。

- 1、ドイツ語の讃美歌（グレゴリオ讃歌の旋律にドイツ語の詩編第34篇の聖句で歌ったもの）
- 2、キリエ・エレイソン
- 3、集禱文
- 4、使徒書の朗読
- 5、ドイツ語の讃美歌（「今われらは聖霊を祈る」等の讃美歌を歌う）
- 6、福音書の朗読
- 7、ドイツ語の使徒信条（ニカイア信条をドイツ語の讃美歌の形式にした歌）
- 8、福音書からの説教

3 『ルター著作集』第一集 6（聖文舎、1963年）、413頁。

- 9、主の祈り
- 10、聖餐式のための勧め
- 11、聖餐式制定の言葉
- 12、パンの分配
- 13、ドイツ語の讃美歌（サンクトゥス「聖なるかな」か、「神は讃えらる」か、「我らの救い主イエス・キリスト」のドイツ語訳の讃美歌を歌う）
- 14、葡萄酒の分配
- 15、ドイツ語の讃美歌（13 で用いた讃美歌の後半部か、ドイツ語のアグヌス・デイ〔神の小羊〕を歌う。）
- 16、集禱（聖餐の感謝の祈り）
- 17、アロンの祝禱

このように、ルターは宗教改革の初期のころから礼拝の中で、ドイツ語で行い、ドイツ語で会衆が歌う讃美歌を勧めたのです。しかし、ヴイッテンベルクで行なわれる礼拝を完全にドイツ語に統一することはしませんでした。なぜなら、若い神学生たちが、様々な外国語で礼拝できることを望み、教育上の配慮をしたからです⁴。

さて、この後もルターは、次々と新しい讃美歌の出版に着手しました。1529年には、『讃美の書 Gesangbuch』が、ヨーゼフ・クルーク Joseph Klug によって出版されています。この中に、ルターの有名な「神はわがやぐら Ein feste Burg ist unser Gott」が収められています。これは詩編第 46 篇をパラフレーズした力強い讃美歌で、今日 200 種類の翻訳をもつと言われています⁵。

コラール Wir glauben all an einen Gott 「我らみな唯一なる神を信ず」
Christe du Lamm Gottes 「キリスト 汝 神の小羊」（讃美歌 21-86）

< 6、ルターの讃美歌の特色 >

ルターが最初に作った讃美歌は、今日の私たちが歌いなれているルターの讃美歌のイソメトリック（等韻律）なメロディーと異なって、シンコペーション（切分音）を多用した、変化に富むリズムをもっていました。以下、次のような特色があります。

- 1、伴奏がなくても歌いやすくするために、リズムが明確で、変化に富んだものが多い。
- 2、後のジュネーヴの詩編歌やこれに影響されるイギリスの讃美歌の落ち着いた抑制された旋律と対照的に、力強く、荒々しい。
- 3、旋律の抑揚が大きく、その幅が十段階を超えるものがある。
- 4、曲の最終部分になると単旋律的な傾向をもつ。
- 5、16 世紀に広がる新しい時代の流行の

⁴ 前掲書、422 頁を参照。

⁵ *Hymnal Companion to the Lutheran Book of Worship*, by Marilyn Kay Stulken, (Philadelphia: Fortress Press, 1981).

音色を取り入れることに関しては慎重であった。6、後代よりも多様で、霊的な韻律が多く見られる。7、一種の「適切なる音調」というようなものがあり、ここに拘る傾向があった⁶。

コラール Ein feste Burg ist unser Gott 「神はわがやぐら」 (EG-362)

1. オリジナル 2. のちの形

ジュネーヴ詩編歌 Nun saget Dank und lobt den Herren

「めぐみあふるる主に」(詩編 118)

<7、おわりに>

ルターは、少年時代に教会の聖歌隊で歌うことを楽しみにしていたと言われており、リュートとフリユートを奏し、美声の持ち主であったようです。当時の教会音楽をドイツ語にパラフレーズしたり、民衆の歌を讃美歌へ編曲したりすることは得意でした。しかし、作曲家であったかどうかについては異論があります。また宗教改革の初期にあたるルターの時代には、教育上の配慮を施したと言うものの、ラテン語とドイツ語の両方が礼拝や讃美歌に用いられ、その結果、礼拝の中にローマ・カトリック教会の典礼を多分にのこしています。教会の内部にも装飾や絵画、聖人像がそのまま飾られています。その点、ルターの後に登場する宗教改革者たち、ツヴィングリやブツァー、特にカルヴァンの時代になると、プロテスタント独自の礼拝式や詩編歌などが登場して、より改革的な路線が鮮明になっていきます。

追記「ルターとバッハ」

今井 奈緒子

ルターとバッハの間には200年近い隔りがあるにせよ、彼らは同じラテン語学校に学んでいます。ルターがコラールによって「教理」を教えようとしたことに倣い、バッハは音楽で「教理」を歌いました。バッハの《クラヴィア練習曲集第3部》は、大小21曲の「教理問答」コラールを含む、オルガンのための作品集です。バッハの時代に使われた『讃美歌付き教理問答書』(Erfurt, 1714)は十戒、信仰告白、主の祈り、洗礼、悔い改め、聖餐の6部分からなっており、それぞれの教えの箇所にあわせて讃美歌(コラール)が示されていました。当時の学校では、教理問答の6部分が毎日ひとつずつ教えられると同時に、各曜日には特定のコラールを歌うことが定められていたのです。水曜日は「主の祈り」でした。最後にやはりルター作のコラール「天にまします我らの父よ」を、バッハ作曲の前奏と共にお聞きください。

オルガン用編曲 Vater unser im Himmelreich 「天にまします我らの父よ」

J.S. バッハ作曲 BWV683

同コラール(讃美歌)

6 Erik Routley, *The Music of Christian Hymnody* (London: Novello and Company LTD. 1957), p.13.

2017 年度

第 22 回 キリスト者教員研修会報告

第 22 回キリスト者教員研修会プログラム

日時：2018 年 1 月 9 日（火） 14：00～19：30

場所：土樋キャンパス 8 号館第 1 会議室

総合司会 大学宗教主任 阿久戸 義愛

時間・会場	内 容
14：00～14：30	開会礼拝 <p style="text-align: right;">司会・説教 大学宗教主任 原田 浩司</p> 讃美歌 281 聖 書 ローマの信徒への手紙 5 章 1～9 節 説 教 「神に義とされる」 祈 禱 讃美歌 539
14：30～15：30	主 題「キリスト教教育の諸課題」 <p style="text-align: right;">担当 宗教部長 野村 信</p> 1、キリスト教教育のマニフェスト 2、大学礼拝月間主題設定案 3、大学礼拝説教について 4、提案事項 5、その他
15：30～15：50	コーヒーブレイク
15：50～17：50	自由討議 <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任 鐸木 道剛</p> 発題をめぐって
17：50～18：00	休憩
18：00～19：30	クリスマン・フェローシップ <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任 藤原 佐和子</p> 閉 会

＜東北学院の礼拝及びキリスト教教育について＞（学院）

東北学院は創立以来、本法人に所属する各教育機関において、福音主義キリスト教による聖書を土台とした学校礼拝及びキリスト教教育を一貫して行ってきた。これらは東北学院の「建学の精神」である「個人の尊厳の重視と人格の完成」を具現化する学校行事でありかつ教育の基本方針である。今後ともそれぞれの教育機関は正規の学校行事としての礼拝と正課必修のキリスト教教育を不変のこととし、「地の塩、世の光」として地域、社会に貢献する人材の育成に励むものである。

＜キリスト教教育の基本方針＞（大学）

＜理念・目的＞

本学は、福音主義キリスト教による聖書を土台とした日々の大学礼拝と諸行事、必修科目のキリスト教を軸にして、各教育機関における一般教育と研究活動を行い、学生の人格の完成を目指し、文化の発展と福祉に貢献する人材を育成することを目標とする。聖書は福音主義キリスト教の中心にあり、現代のみならず未来においても人間に生きる指針と知恵を豊かに提供し、人格形成と社会貢献を促し、愛と平和の精神を培う。よって、福音主義キリスト教を建学の精神とする本学においては、大学礼拝とキリスト教教育において、聖書を学生たちに十分理解できるように説き明かし、有益なものとして教授することをキリスト教教育の基本方針とする。

＜教育目標＞

- ① 聖書をよく読み、親しみ、内容を理解できるようになる。
- ② 聖書からよく生きようとする態度を身に着ける。
- ③ キリスト教の様々な領域について学び、豊かに人生を歩む心を育てる。

【参考】

＜東北学院建学の精神＞

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとした。

その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

平成 8（1996）年 5 月 28 日東北学院理事会決定

平成 22（2010）年 3 月 4 日東北学院理事会一部修正

＜東北学院教育の基本方針＞

東北学院は創立以来、本法人に所属する各教育機関において一般の教育・研究活動と共に福音主義キリスト教に基づく宗教教育を一貫して行ってきた。

今後ともそれぞれの教育機関は、正規の学校行事としての礼拝と正課必修としてのキリスト教教育を不変のこととして実施していくものとする。

平成 18（2006）年 7 月 21 日東北学院理事会決定

＜スクール・モットー＞ 3 L 精神（Life, Light, and Love for the World）

地の塩、世の光

＜TG150 Vision モットー＞ 豊かに学び、地域へ世界へ よく生きる心が育つ東北学院

キリスト教学1年シラバス（前期、後期）＜キリスト者教員研修会 参考資料＞

2018年1月9日

【前期】科目名：聖書を学ぶ

テーマ：キリスト教の基本（聖書入門）

講義内容：旧新約聖書の構成と内容の概略を学ぶ。聖書のメッセージを理解して、よく生きようとする態度を学ぶ。

達成目標：(1) 聖書に親しみ、聖書の箇所を正しく開くことが出来る。
(2) 聖書の基本的内容（メッセージ）を理解し、説明出来る。

授業計画

第1回	はじめに：東北学院とキリスト教
第2回	聖書の全体構成と基本的事柄
第3回	旧約聖書を読む（1）創世記について
第4回	旧約聖書を読む（2）出エジプト記について
第5回	旧約聖書を読む（3）歴史文学について
第6回	旧約聖書を読む（4）預言書について
第7回	旧約聖書を読む（5）知恵文学について
第8回	新約聖書を読む（1）イエス・キリストの生涯
第9回	新約聖書を読む（2）イエス・キリストの教え（1）主の祈り
第10回	新約聖書を読む（3）イエス・キリストの教え（2）たとえ
第11回	新約聖書を読む（4）イエス・キリストの十字架と復活
第12回	新約聖書を読む（5）使徒の働き
第13回	新約聖書を読む（6）パウロの生涯と伝道
第14回	新約聖書を読む（7）手紙と黙示録
第15回	聖書を学ぶ意義とまとめ

【後期】科目名：キリスト教と歴史と思想

テーマ：キリスト教の基本（その歴史と基本的な考え）

講義内容：キリスト教の歴史の概略と、キリスト教の基本的な考え方を学ぶ。

キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方から学んで、よく生きようとする態度を身に付ける。

達成目標：(1) キリスト教の歴史的歩みを理解し、説明出来る。
(2) キリスト教の基本的な考え方を理解し、説明出来る。
(3) キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方を理解し、説明出来る。

授業計画

第1回	< 1～7. キリスト教の歴史 > 古代のキリスト教の歴史
第2回	中世のキリスト教の歴史
第3回	宗教改革期のキリスト教の歴史
第4回	近代のキリスト教の歴史
第5回	現代のキリスト教の歴史
第6回	アジアにおけるキリスト教の歴史
第7回	日本におけるキリスト教の歴史
第8回	< 8～14. キリスト教の基本的な考え方 > 神について（1）三位一体の神
第9回	神について（2）キリストと救い
第10回	神について（3）聖霊の働き
第11回	人間について（1）罪と救し
第12回	人間について（2）生と死
第13回	人間について（3）愛と奉仕
第14回	教会について
第15回	キリスト教の歴史と思想を学ぶ意義とまとめ

平成30年度 東北学院大学学事暦 (案) 大学礼拝主題 (宗教部)

平成30年度		東北学院大学学事暦		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
				8月		9月		10月		11月		12月	
4月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
1月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
2月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
3月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
4月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
5月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
6月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
7月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
8月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
9月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
10月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
11月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
12月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
1月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
2月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月
3月	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月	7日 火	8日 水	9日 木	10日 金	11日 土	12日 日	13日 月

4月の主題 礼拝・キリスト教ASC 聖書と信理の精神 イースター	5月、6月の主題 聖書入門、目的聖書 新約聖書	7月の主題 福音書 主の教え たとえ話	9月の主題 キリストの生涯 十字架・復活 伝道・宣教	10月の主題 歴史・人物	11月の主題 日本(人) アジア(人)	12月の主題 人間論 アドベント クリスマス	1月の主題 世界 愛・奉仕
キリスト教のABC 入門、導入の期間 イースター、ペンタゴスタ	聖書ABC 旧約聖書からの話 新約聖書からの話	キリストの教え たとえ話、いやし 弟子たちの働き、書簡	キリストの教え たとえ話、いやし 弟子たちの働き、書簡	人間とは、罪とは、救とは、希望とは 多くの歴史上の人物、その教えと働き	アドベント、クリスマス	アドベント、クリスマス	平和、奉仕、 社会、信理

「大学礼拝への奨励と説教」

宗教部長 野村 信

- 1、大学礼拝は「建学の精神」の具体的表れであり、慎重で、積極的な取り組みが必要である！
- 2、大学礼拝（月間約 80 回、午前中の 30 分）は、大学の営みの中心に据えられている。
キリスト者教員全体の奉仕の場であり、非常に貴重！キャンパスにいる時には出席する。
現状はさらに多忙で苦し紛れになる傾向がある。聖日礼拝縮小説教、学会報告、勧誘、強制…
- 3、現行の大学礼拝の内容を毎回満足あるものとするをを目指す。
- 4、教員課題
 - 1) 時間内で収める。（土樋は 45 分までには終了。泉は時期によるが早めに。多賀城も）
 - 2) 聖書箇所長さと言教長さの合計が大事。10時 31分から 41分までが理想である。
 - 3) 無原稿説教は長くなる傾向がある。原稿を全部書くと良い。
2000～2400 文字 400×5～6 枚（語る速さ、間の取り方により、個人差はある）
- 4) 説教内容
 - i) 原則的に、聖書から伝えるべきメッセージを汲み取る。⇒5)へ
 - ii) 学生対象の大学礼拝という意識をもつことを心がける。
（礼拝を構成する聖餐がないということは、大学礼拝は教会の礼拝に対して二次的である）
 - iii) 逸脱には注意する
 - ①自己称賛、自己活躍を語ることは控える。神称賛、神活躍を語る。
 - ②テレビ、ネット、スマホ、アニメなどの言及を少なくする努力。
（どこか商魂が潜み、流行的、人造的、作為的）
 - ③強制的、断罪的、一方的な社会批判に終始しないこと。
- 5) 聖書からメッセージを汲み、現代（若者）へ適応
 - i) 福音的・救済的・希望的指針
キリストの福音の告知、贖罪、再生、信仰・希望・愛などの聖書の中心メッセージ。
 - ii) 教育的・人間形成的指針…人格形成、人格陶冶、教訓、知恵、人生論など
 - iii) 倫理的・道徳的指針………良い生活への励まし、善行の勧め、神愛と人愛を促す。
ボランティア、人道・博愛、奉仕、貢献へ奨励。
 - iv) 平和的、社会的、身辺的、時事的、思想的言及
 - v) 学事歴的、学業的、時節的、気候的、健康的奨励
 - vi) キリスト教関連書籍（書物や童話など）や例話などに関連させつつ奨励
- 6) 今後の課題
 - i) 学生のアンケート実施の是非
 - ①半年、一年の期間で可能
 - ②学生からの投書もあり得る。投書箱の設置も。
 - ii) 学内外の説教者への周知徹底
 - ①大学礼拝のマニュアルを配り、懇談会か。
 - ②礼拝司会者懇談会の充実か
 - iii) 説教用図書
 - ①図書（註解書他）の充実と図書の紹介
 - ②説教者のために研修会・講演会をもてると良い。

- iv) 説教分析・評価の実施の是非 ①録音をとり、それを議論する。
②説教の訓練、研鑽の方法はあるのか。
- 5、学生への礼拝出席の奨励…学生の礼拝出席を増やす。大学礼拝出席学生数の増加について
- 1) どのようにしたら、強制しないで大学礼拝の出席を促すか。
 - i) 強制する…成績評価や単位修得に直結すると語って礼拝出席を強制する。
⇒後の、礼拝やキリスト教に関する学生評価が著しく悪い。
 - ii) ある程度は強制せざるを得ない。
 - ①入学試験時に読み上げる大学礼拝出席への奨励文
 - ②大学の建学の精神であること
 - ③キリスト教そのものが人格陶冶的、形成的、貢献的、文化・社会・未来的…5)へ
 - ④強いられた恩寵
 - ⑤キリスト教学の教員や第1校時に講義のある教員が率先して、学生を礼拝堂に導く。
 - 2) 大学礼拝の場合に特に心がけること ⇒最初が肝心！
 - i) 新入生のオリエンテーションの、最初礼拝でしっかりと説明し、好印象を与える。
良い時間を過ごせたという、毎回来たいという気持ちを持ってもらう。
 - ii) 最初のキリスト教学で礼拝の出席についてしっかりと説明する(⇒裏面を一例として参照)
 - iii) 礼拝出席記録カードに記入することをよく指示し、最終講義などで回収する。
 - iv) 礼拝出席報告書も同様に、最終講義か、あるいはどこかに提出させる。
教員が誠実に処理していることで、学生もまじめに取り組む気になる。
 - v) 学生に不利益、不愉快な思いをさせないこと！
礼拝時間が長く講義に遅れるとか、よく聞かえない、騒がしい、怒られた、恐ろしかったとか、皮肉っぽかったとか、一度も顔を上げずに話したとか。
 - vi) 肉体のデリケートな表現とか、病名や差別などに関する言葉は慎重にする。
- 6、課題：礼拝への出席奨励は、学内のキリスト教活動、キリスト教性とも関係する。
- 1) キリスト者教員が積極的に礼拝に出ることは欠かせない。それに伴い、一般の先生たちへ大学礼拝の時間には、学生が礼拝に出ることに差し障りないように心がけてもらう。これは一般の先生たちにどこかで話す機会が必要であるが、いまだに実現していない。大学全体がこの姿勢をもつことが求められる。クリスマス礼拝の時間に学生の出席を妨げない。
 - 2) 学内全体にキリスト教的な雰囲気(キリストの香り：2コリント 2:14)が浸透すると良い。目に見える形で、耳で聞こえる形で、講義全体で、施設全体で、教職員の態度全体で。
 - 3) それゆえ、キリスト教の文化的、活動的な側面、すなわちキリスト教音楽(器楽と声楽)、キリスト教美術(絵画、ステンドグラス)、キリスト教文学、キリスト教出版物(これは今盛んに行っている)、キリスト教ボランティア、キリスト者学生他大学交流会、キリスト者学生国際交流会など、他のキリスト教大学では行っている活動を、少し話題にするくらい、大学礼拝を中心にして隔々にまで浸透し、広がりのある取り組みが検討される余地はある。
現在は、「毎日の大学礼拝」と「必修のキリスト教学」というこの2点を固守し、「総合人文学科」を豊かにすることに全精力を使い切っている感がある。方針や人数的なことは欠かせないが、将来の新キャンパス構想を視野に(キャンパス間移動の時間ロスがなくなれば)、宗教部も新しい視野を一つ打ち出すことは出来るだろう。これらは今後の課題である。
 - 4) この新キャンパス構想は、「礼拝堂の開放性」の課題を自ずと解決することになる。礼拝堂へ入りやすいということは、「礼拝」への出席にも意外に効果がある。

2017 年度

第 43 回 サマーカレッジ

2017年度 第43回サマーカレッジ 蔵王ロイヤルホテル
 テーマ：ルターから今を考える～宗教改革500周年

8月7日(月)		8月8日(火)	
		7:30	朝食（各自、バイキング） *各室フロントでチェックアウトを済ませ、荷物を持って集まること。 ～忘れ物のないように～
9:00	集合（土樋キャンパス H305 教室） ☒開会礼拝 参加者自己紹介	9:00	☒朝の祈り
9:30	史料センター（ラーハウザー礼拝堂地下）見学	9:20	<講演Ⅱ> 「過去の宗教改革と君たちの明日」 講師：原田浩司先生（大学宗教主任） 場所：宮城蔵王ロイヤルホテル
10:00	<講演Ⅰ> サマー・カレッジ公開講演 「ルターから今を考える」 講師：小田部進一先生（玉川大学文学部教授） 場所：土樋キャンパスホーイ記念館ホール	10:45	グループ討論②
11:40	☒バスで宮城蔵王ロイヤルホテルに移動 オリエンテーション	11:30	報告・アンケートの記入
12:50	昼食	12:00	☒閉会礼拝
13:30	グループ討論①	12:30	昼食
14:30	チェックイン・休憩時間	13:30	☒バス移動 宮城蔵王ロイヤルホテル出発
15:00	レクリエーション ビーチボール・フットサル ソフトボール、DVD鑑賞など	14:00	蔵王近郊での野外体験活動 宮城蔵王こけし館にて見学、絵付け体験
16:30	自由時間：入浴など （※野外体験活動の場合 17:30 から 18:00 まで自由時間とし、証の時は夕食後へ）	16:00	☒バス移動 出発
17:30	証の時・テーマ別懇談 上級生の経験談をシェア	17:30	土樋キャンパス着 解散
18:30	夕食		
19:30	讃美の時 学生企画募集		
20:15	レクリエーション		
21:00	☒夕べの祈り（野村宗教部長）		
21:30	解散 ☆就寝☆		

講演Ⅱ

「過去の宗教改革と君たちの明日」

ルターから今を考える

大学宗教主任 原田 浩司 先生

「過去の宗教改革と君たちの明日」

ルターから今を考える

大学宗教主任 原田 浩司

2017年度
サマー・カレッジ 2日目
講演Ⅱ
過去の宗教改革と君たちの明日
総合主題: ルターから今を考える
原田浩司

はじめに
なぜ今年のサマー・カレッジの主題が「ルター」なの？

- 東北学院大学の公式行事としてのサマー・カレッジ
東北学院のキリスト教のルーツ
「三校祖」(押川方義、ホーイ、シュネーダー)
※去年のサマーカレッジの主題
2人の米国人は「German Reformed Church」からの宣教師たち
- 東北学院は「仙台神学校」として創立された。
- 東北学院は1886年に創立した。
1886年 ➡ 2016年 「130年」の記念の年(カイロス)
- 東北学院の建学の精神は？

はじめに
なぜ今年のサマー・カレッジの主題が「ルター」なの？

- ルターは「宗教改革」の第一人者
(※1年生は後期の「キリスト教の歴史と思想」で学びます)
- 宗教改革のはじまり
 - 1517年10月31日ルター「95か条の提題」
- 今年「2017年」
1517年 ➡ 2017年
ちょうど「500年」の記念の年(カイロス)
世界中で「宗教改革」を記念した催しが開催される



「ルター」の基礎知識
昨日の講演のふりかえり

- 「ルター」は現在の国で、どこ出身の人？
- ルター(苗字)の「名前」は？
- 彼が「95か条の提題」を掲げた町で、今日「ルター」の町」として知られる町の名は？
- ルターはどうしてローマ・カトリック教会から破門されたの？
- ルターが好きな「くだもの」は？
- ルターが生きた時代は日本では「何時代」？
- ルターはどうして尊敬されているの？



上:キリスト新聞社の改革者キャラ(中央がルター)
左の肖像画と比べて…デフォルメすぎ!?



素朴な疑問点

ルターかルーテルか、はたまたルーサーか？

- ・「ルター」はドイツ語での発音
- ・「ルーテル」フランス語/ラテン語での発音
(発音はlyter, ルとリュの中間の音)
- ・「ルーサー」は英語での発音

本人はゲルマン人ですからドイツ語発音の「ルター」が一般的

1. 宗教改革は「過去」の話か？

- ・今から500年前の過去に起きた…「昔話」
- ・「過去」…いつしか記憶から過ぎ去っていく
「日本人は忘れっぽい」？
- 人はいつしか「過去」を忘れていく
- 節目節目に「記念する」⇒ 今、心に記す
- 1517年⇒宗教改革の「はじまり」
- では宗教改革は「いつ終わったのか」？
- ⇒ 「宗教改革」は終わっていない
- 「御言葉によって絶えず改革される」
- ↓
- <改革>は今もお続いている
- 「試合終了」の笛はまだ鳴っていない！

I HAVE A DREAM

2. 現代における宗教改革の精神

- ・ルターの精神を受け継ぐ代表例
マーチン・ルーサー・キング,Jr.(1929-1968年)
プロテスタント教会(バプテスト)の牧師
- ※マーチン・ルーサー(英語発音)
- ||
- マルティン・ルター(独語発音)
キング牧師は何をした人？
- 1月の第三月曜日はアメリカ国民の休日
「キング牧師の誕生日」(1月15日)

DR. MARTIN LUTHER KING
APPEARING AT THE
SOUTHERN BAPTIST CHURCH
APRIL 4th - 1968
MEMPHIS, TENNESSEE

I HAVE A DREAM

キング牧師の名言

- ・説教・演説で語ったフレーズ
- Take the first step in faith. You don't have to see the whole staircase, just take the first step.
- Even though we face the difficulties of today and tomorrow, I still have a dream.
- We must accept finite disappointment, but never lose infinite hope.
- Almost always, the creative dedicated minority has made the world better.
- 「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神

DR. MARTIN LUTHER KING
APPEARING AT THE
SOUTHERN BAPTIST CHURCH
APRIL 4th - 1968
MEMPHIS, TENNESSEE

3. ルターの名言

Q: ルターが好きな「くだもの」は何？
答え: りんご

●ルターと「りんご」

「たとえ明日世界が減ぶとも、それでもわたしは今日りんごの木を植える」
(※ルターに帰せられる言葉)

⇒「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神

終末は神の御支配の内にあるなら、私たちがあれこれ詮索しても仕方ない。私たちにできるのは今日一日、自分にできることを精一杯やることのみ。

⇒ 今、自分ができる精一杯を尽くし、今を生きよ！

3. メメント・モリ(汝の死を覚えよ)

キリスト教と終末論
終末=「終わりの時」

物事には「終わり」がやって来る

「終わり」の多面性

例: 別れ・卒業 ⇒ 悲しみ
つらい・しんどい状況の終わり ⇒ 希望

●中世の修道士たちの朝

朝3時起床後の日課 ● メメント・モリ
新しく始まった今日も、必ず終わりが来る一日。
一日の終わりに後悔しないよう、今日を精一杯生きよ！
ルターももともとは「修道士」だった。

4. 君たちの明日

「たとえ明日、世界が減ばうと、
それでも、わたしは今日りんごの木を植える」
宗教改革者ルターの精神
⇒「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神
こうして二人のルターは当時の「岩盤」を突破！
※16世紀の岩盤…「教皇」「カトリック教会」の権威
20世紀の岩盤…「人種差別」「人権」
今あなたが直面する「岩盤・壁」は何か？
強靱な精神の由来…「聖書のみ」・「信仰のみ」
● 宗教改革の原理
ルターの精神は「現代」も進行中である
なぜなら「宗教改革」はまだ終わっていないから

4. 君たちの明日

「それじゃ、しょうがないか、意味ないか」…諦め
⇒「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神
この世には一見「無意味・無価値」にしか思えないことも多々ある。
もし明日世界が減ばうなら「りんごの木を植える」のは全くの無意味！
しかし、明日世界が減ばわないなら、今日の行為は確実に明日の未来につながる。
ルターは躊躇なく「明日につながる今」を選ぶ。
神様から与えられた「今日なすべきつとめ」を果たすことを選ぶ
● あなたはどちらを選ぶ

4. 君たちの明日

・昨日のDVDアニメ作品は何だった？
愛少女ポリアナ物語 ⇔ 「少女バレーアナ」(本)
様々な悲しい出来事に直面する主人公ポリアナ
「よかった探し」 ⇒ 「にもかかわらず、喜ぶ」
「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神
村岡花子さん(クリスチャン[プロテスタント])の翻訳
NHK2014「花子とアン」⇒『赤毛のアン』の訳者
主人公アンとバレーアナの共通点
両親を亡くした少女 ⇔ 養子となる
不幸「にもかかわらず」成長して女性たち
⇔ 花子さん自身「貧しい農村出身」「太平洋戦争」

4. 君たちの明日

「明日」=まだ見ぬ将来
キリスト教的な未来論としての「終末論」
終わりの時 = 「学生時代」も必ず終わる
学生としてのあなたの余命はすでに4年を切った
↓
今できること・今しかできないこと、今なすべきこと
☆皆さんにとっての「宗教改革」
⇒ルターが「今なすべきこと」を貫いた結果
ルターの土台は「聖書」
皆さんがおそらく今しか学べないもの聖書です。
「聖書」とは？
プロテスタントの精神とは？

まとめ

1日目講演Ⅰ: ルターから今を考える
2日目講演Ⅱ: 過去の宗教改革と君たちの明日
↓
宗教改革はただの「過去(-ed)」ではない
「現在進行形(-ing)」
東北学院をとおして、今のわたしたちに
「現在化」する重要な精神
「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神
さらに、メメント・モリ
「終わりの時を見据え、今を精一杯生きる」精神
「end」は終わりとともに「目標」を意味する
目標を見据えて、今なすべきことをする
それが「君たちの明日」へとつながっていく

2017（平成 29）年度
東北学院大学宗教活動報告

2017（平成 29）年度東北学院大学宗教活動報告

1. 教員組織

宗教部長	野村 信
書記	原田浩司
土樋担当	鐸木道剛、吉田 新
多賀城担当	阿久戸義愛、北 博
泉担当	原田浩司、藤原佐和子
大学オルガニスト	今井奈緒子
総合人文学科長	出村みや子
キリスト教文化研究所長	鐸木道剛

2. 大学礼拝

月～土曜日	10時25分～10時45分（土樋、多賀城、泉）
月曜日	19時30分～20時00分（泉女子寄宿舍）
火曜日	19時30分～20時00分（泉寄宿舍、旭ヶ岡寄宿舍）

年間総出席者数

キャンパス	2017年度			2016年度			2015年度		
	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋(朝)	20,328	181	111	15,156	180	84	18,285	181	101
多賀城	24,729	180	137	17,094	180	95	34,784	181	192
泉	59,124	181	327	53,352	180	296	73,112	181	404
土樋(夜)	0	0	0	835	32	26	820	32	26
総数	104,181	543	192	86,437	572	151	127,001	575	221

[備考]・春季・秋季特別伝道礼拝、大学祭礼拝、大学クリスマス礼拝を含む。

・平均値の小数点以下四捨五入。

総回数 628 回 [3 キャンパス (543 回)・寄宿舍 (85 回)]

－礼拝司会者内訳－

学外（牧師） 285 回

学内 343 回

—学内者内訳—

理事長・学長、院長、キリスト者教員、学生など

69回

宗教部関係者

274回

—宗教部関係者内訳—

宗教部長 35回 (含 大学祭礼拝)

阿久戸義愛大学宗教主任 31回 (含 寄宿舍クリスマス)

北博大学宗教主任 28回

鐸木道剛大学宗教主任 31回 (含 大学祭礼拝)

原田浩司大学宗教主任 30回 (含 大学祭礼拝)

藤原佐和子大学宗教主任 30回

吉田新大学宗教主任 27回 (含 寄宿舍クリスマス)

出村みや子総合人文学科長 29回

佐藤司郎先生 27回

今井奈緒子先生 6回

3. 春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

土樋キャンパス	2017年5月10日(水) 10時10分～11時	<u>508名出席</u>
	説教者 平野克己牧師(日本基督教団代田教会)	
多賀城キャンパス	2017年5月9日(火) 10時10分～11時	<u>657名出席</u>
	説教者 阿部祐治牧師(日本基督教団泉高森教会)	
泉キャンパス	2017年5月9日(火) 10時10分～11時	<u>1417名出席</u>
	説教者 平野克己牧師(日本基督教団代田教会)	

4. 秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

土樋キャンパス	2017年10月12日(木) 10時10分～11時	<u>292名出席</u>
	説教者 松谷信司氏(キリスト新聞社代表取締役社長)	
多賀城キャンパス	2017年10月11日(水) 10時10分～11時	<u>374名出席</u>
	説教者 関川祐一郎牧師(日本基督教団石巻山城町教会)	
泉キャンパス	2017年10月11日(水) 10時10分～11時	<u>964名出席</u>
	説教者 松谷信司氏(キリスト新聞社代表取締役社長)	

5. 第29回泉キャンパスクリスマス

日時	12月1日(金) 18時30分より (18時開場)	約300名参加
場所	泉キャンパス礼拝堂	
司式者	原田浩司先生 (大学宗教主任)	
奏楽者	今井奈緒子先生 (教養学部教授、大学オルガニスト)	
説教者	平賀真理子牧師 (日本基督教団仙台南伝道所)	
説教題	「神様からの愛、神様への愛」	

6. 大学クリスマス

泉キャンパス

790名出席

日時	12月14日(木) 10時25分より
場所	泉キャンパス礼拝堂
司式者	野村信先生 (宗教部長)
奏楽者	長谷部真理子先生 (礼拝オルガニスト)
説教者	長山道先生 (東京神学大学准教授)
説教題	「とんでもないクリスマス」
聖書	新約聖書 ルカによる福音書 第1章26節～38節

土樋キャンパス

311名出席

日時	12月14日(木) 16時20分より
場所	ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
司式者	原田浩司先生 (大学宗教主任)
奏楽者	菅原淑子先生 (礼拝オルガニスト)
説教者	長山道先生 (東京神学大学准教授)
説教題	「神はわたしたちと共に」
聖書	新約聖書 マタイによる福音書 第1章18節～25節

多賀城キャンパス

375名出席

日時	12月15日(金) 10時25分より
場所	多賀城キャンパス礼拝堂
司式者	藤原佐和子先生 (大学宗教主任)
奏楽者	今高和枝先生 (礼拝オルガニスト)
説教者	長山道先生 (東京神学大学准教授)
説教題	「新しい帰り道」
聖書	新約聖書 マタイによる福音書 第2章1節～12節

7. 第22回スプリング・カレッジ

日 時 2017年4月15日(土) 14時40分～18時30分
場 所 泉キャンパス礼拝堂(1階) 小礼拝堂、会議室
内 容 キリスト者等推薦入学生へのガイダンス
開会礼拝 出村総合人文学科長
挨 拶 野村宗教部長

キリスト者等推薦学生の心得・義務の説明 吉田大学宗教主任

- ①年間宗教行事への参加(必席)について
- ②大学礼拝への出席について
- ③聖書研究会か聖歌隊のいずれかへの加入について
- ④出席教会の確定と報告について
- ⑤その他(統一教会への注意など)

学生21名、教育職員9名、事務職員3名 計33名参加

8. 第43回サマーカレッジ

日 時 2017年8月7日(月)～8月8日(火) 1泊2日
場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル
主 題 「ルターから今を考える～宗教改革500周年」
講 師 玉川大学文学部人間学科教授 小田部進一先生
学生16名 教職員8名(宗教部長、大学宗教主任、事務局) 計24名参加

9. 第62回教職員修養会

日 時 2017年8月30日(水)～8月31日(木) 1泊2日
場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル
主 題 「聖書に聴く」
講 師 国際基督教大学学長 日比谷潤子先生
参加人数 131名

10. キリスト者等推薦入学生との懇談会

日 時 2017年7月4日(火) 泉キャンパス
学生19名ほか 計28名参加
2017年12月5日(火) 泉キャンパス
学生10名ほか 計18名参加

11. 礼拝奉仕者懇談会（事務職員）

土樋キャンパス	2017年6月1日（木）11:00～11:20	松本学長、鐸木大学宗教主任ほか	計27名参加
多賀城キャンパス	2017年5月25日（水）11:00～11:20	松本学長、中沢工学部長、阿久戸大学宗教主任ほか	計25名参加
泉キャンパス	2017年5月17日（水）11:00～11:20	松本学長、野村宗教部長、中川特任准教授ほか	計19名参加

12. 礼拝オルガニスト懇談会

日 時	2018年2月19日（月）11時～13時
場 所	土樋キャンパス会議室
参 加	28名（礼拝オルガニスト他）

13. 礼拝司会者（牧師）懇談会

日 時	2018年2月19日（月）18時～20時
場 所	仙台国際ホテル
参 加	46名（牧師、学内役職者他）

14. 宗教部会

開催日	2017年4月6日（木）、5月11日（木）、6月8日（木）、7月13日（木）、 9月28日（木）、10月19日（木）、11月30日（木） 2018年1月18日（木）、2月19日（月）	計9回
-----	---	-----

15. 大学宗教主任会

開催日	2017年5月11日（水）、11月9日（木） 2018年1月25日（木）、2月23日（金）（メール審議）	計4回
-----	---	-----

16. 聖書研究会

土樋キャンパス	北 博	旧約聖書を読み、語ろう
	出村みや子	アウグスティヌスを学ぶ
	野村 信	希語羅語聖書読書会
	藤原佐和子	フェミニスト神学の視点による聖書注解
	吉田 新	聖書に学ぶ生きるヒント
多賀城キャンパス	鐸木 道剛	キリスト教と物質文化
	長島 慎二	賛美と聖書の学び

泉キャンパス	阿久戸義愛	キリスト教と現代
	野村 信	み言葉を慶び、歌う
	原田 浩司	キリスト教の基礎知識

17. 宗教部予算会議

日 時	2017年11月20日(月) 15時
議 題	「2017年度補正予算及び2018年度予算案について」
場 所	泉キャンパス礼拝堂1階会議室
参 加	宗教部長、大学宗教主任、宗教音楽研究所所長、各キャンパス事務担当者

18. 宗教部自己点検評価委員会

(1) 2017年度第1回

日 時	2017年10月13日(木) 15時
主 題	「2017年度(前期)宗教活動について」 「2017年度(後期)宗教活動予定について」
場 所	土樋キャンパス本館応接室

(2) 2017年度第2回

日 時	2018年2月22日(木) 15時30分
主 題	「2017年度東北学院大学宗教活動報告について」 「2018年度東北学院大学宗教活動予定について」

19. 青山学院大学・東北学院大学合同チャプレン代表者会

2017年9月22日(金) 野村宗教部長：青山学院大学訪問

20. 宗教部研修会

日 時	2017年7月13日(木) 16時～19時30分
場 所	東北学院サテライトステーション会議室
発 題	「キリスト教主義学校における礼拝」
発題者	阿久戸大学宗教主任、鐸木大学宗教主任
参加者	院長、宗教部長、大学宗教主任、総合人文学科長、総務部長、 総務課長ほか 計13名

21. 第 22 回キリスト者教員研修会

日 時 2018 年 1 月 9 日 (火) 14 時～ 19 時 30 分
場 所 土樋キャンパス 8 号館第 1 会議室
主 題 「神に義とされる」
発題者 阿久戸大学宗教主任
参 加 教育職員 12 名、事務職員 3 名 計 15 名

22. 大学宗教委員会

日 時 2018 年 3 月 7 日 (水) 11 時
場 所 土樋キャンパス 8 号館第 1 会議室

23. 学長招待卒業生懇談会

日 時 2018 年 3 月 13 日 (火) 12 時～ 13 時
場 所 土樋キャンパス
出 席 松本学長、卒業予定者、大学宗教主任ほか

24. 『大学礼拝』

139 号「秋号」、140 号「クリスマス特集号」、141 号「入学・進学特集号」

25. 『キリスト教活動のハンドブック』

2018 年 3 月発行

26. 『礼拝説教集』

第 22 号 (2018 年 3 月末日発行)

27. 『東北学院大学宗教活動報告書』

第 18 号 (2017 年 8 月 31 日発行)

28. 卒業記念礼拝

日 時 2018 年 3 月 26 日 (月) 11 時
説教者 野村信宗教部長
説教題 「地の塩、世の光」

29. その他

礼拝堂管理、図書資料受入、調査回答

東北学院大学 「宗教活動報告書」

第 19 号（2017 年度）

発行日	2018年8月31日
発行責任者	宗教部長 野村 信
編集責任者	宗教部長 野村 信
出版社	株式会社佐々木印刷所
問い合わせ先	東北学院大学総務課
〒980-8511	仙台市青葉区土樋1の3の1
	電話 022-264-6428

